

# 京都府埋蔵文化財情報

## 第85号

佐山尼垣外遺跡の縄文晩期中葉土器 -----	柴 暁彦 --	1
平成14年度発掘調査略報 -----		10
1. 高梨遺跡第2次		
2. 下植野南遺跡(土辺地点)		
3. 女谷横穴群(B支群)		
4. 荒坂遺跡		
5. 荒坂横穴群(A・B支群)		
6. 御毛通遺跡		
7. 畑ノ前遺跡第6次		
府内遺跡紹介 92. 今里大塚古墳 -----		21
長岡京跡調査だより・82 -----		23
センターの動向 -----		26
受贈図書一覧 -----		28

2002年9月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

さやまあまがいと  
佐山尼垣外遺跡の縄文晩期中葉土器

柴 暁彦

1. はじめに

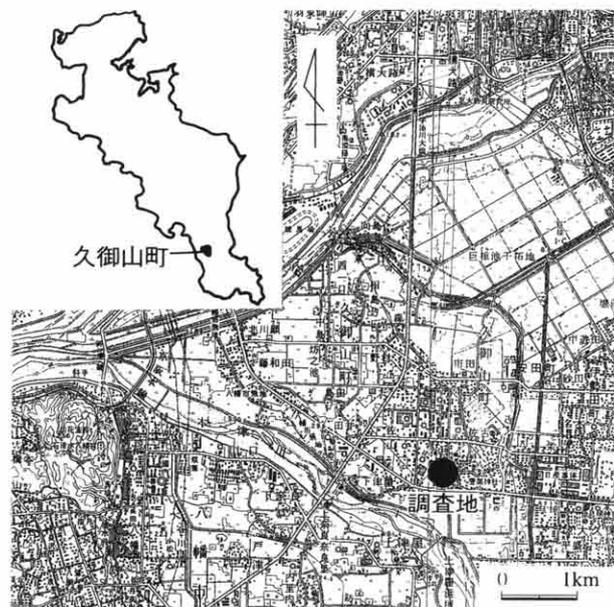
佐山尼垣外遺跡は、京都府久世郡久御山町佐山小字尼垣外に所在する。遺跡は山城盆地の中央部にあり、遺跡から南へ約1.5kmには、木津川が北西方向に向かって流れており、その右岸の微高地上に位置する(第1図)。標高は9.8~10m前後を測る。

当遺跡の発掘調査は、国土交通省が計画している第二京阪自動車道路および国道1号京都南道路の建設に伴う調査として平成11年度に実施された。調査面積は約5,000m<sup>2</sup>を測り、掘削残土の置き場の確保から東半・西半に分けて調査を行った。検出した遺構の概要は、15世紀頃の久世郡条里に伴う里道および側溝などからなる上層遺構面と弥生時代中期中葉から後半の方形周溝墓群と後期段階の断面「V」字状をなす溝や竪穴式住居跡、そして今回問題とする縄文時代晩期中葉の溝などを検出した下層遺構面の合計2面が存在していた(第2図)。

今回小論で触れる溝S D229は長さ28m、幅13m、深さ約0.45mを測り、断面形状が浅い皿状を呈する(第3図)。溝は北西-南東方向に斜行しており、出土した土器は南東寄りの下流部に集中していた。土器の時期は、おおむね縄文時代晩期中葉の突帯文土器出現期、すなわち滋賀里Ⅲb式新段階(家根の提唱する篠原式)<sup>(注1)</sup>から滋賀里Ⅳ式段階を含む口酒井期と考えている。この出土土器の中には、佐山尼垣外遺跡の報告書で深鉢B類とした一群が存在し、近畿地方においては特異な土器群である。本稿では、この土器およびS D229出土の深鉢形土器について、編年的位置付けを試みるものである。

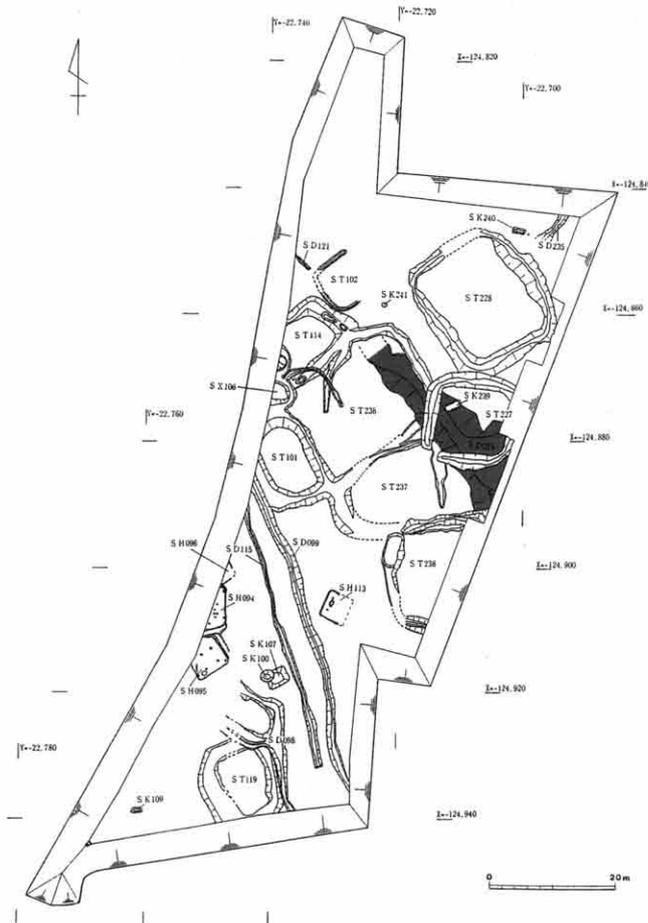
2. 周辺の遺跡の状況(第4・5図)

佐山尼垣外遺跡と前後する時期の土器を出土する遺跡は、京都盆地の東部と南西部に比較的まとまって存在している(第4図)。前者は、京都市の中心部から北東方向に位置する比叡山西南麓に広がっている。後者は、西山山麓と淀川水系との間の低位段丘上に立地する向日市・長岡京市・大山崎町の3市町にまたがる乙訓地域である。遺跡数は30遺跡を数えるが、まとまった土器の

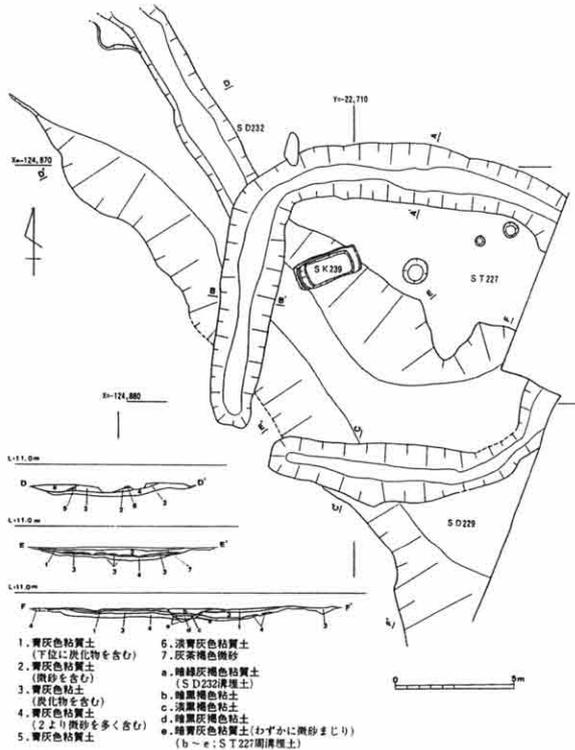


第1図 調査地位置図

(国土地理院1/50,000京都西南部・京都東南部を改変)



第2図 下層遺構平面図



第3図 S D 229実測図

出土をしている遺跡は少ない。第6図では山城地域の主な資料を示した。4の土器を除いて土器棺として使用されたものや包含層からの出土である。4の京都大学北部構内遺跡での出土状況のように、土坑からの一括資料や佐山尼垣外遺跡のような溝からの出土といった出土状況は京都府内ではまれな例といえる。遺構内からの出土例は、近畿地方をみても大阪府東大阪市の鬼塚遺跡にみられる程度であるが、比叡山西南麓の北白川追分町遺跡では、京都大学北部構内での調査において、後に触れる土坑および包含層から佐山尼垣外遺跡の土器群とほぼ同時期の資料が出土している(第6図)。また、佐山尼垣外遺跡と同じ旧巨椋池の隣接地に立地する宇治市寺界道遺跡では、深鉢を利用した土器棺墓が検出されている。時期は佐山尼垣外遺跡の土器群に後続する口酒井期から船橋式期の段階である。

良好な資料が少ないなかで、第5図に示した晩期中葉の滋賀里Ⅲb式から滋賀里Ⅳ式土器を概観すると、肩部に最大径を持つ器形は普遍的であるが、滋賀里Ⅲb式段階には突帯文土器はみられず(1・2)、滋賀里Ⅳ式段階に口縁部外面に貼り付け突帯を持つ土器(突帯文土器)が出現する(3・4)。口酒井期(滋賀里Ⅳ式から船橋式への過渡的段階)には、口縁部外面および肩部に突帯を貼り付けた二条突帯土器が現れる(6)。滋賀里Ⅳ式に出現する突帯文土器は突帯上を工具によりC字・D字・

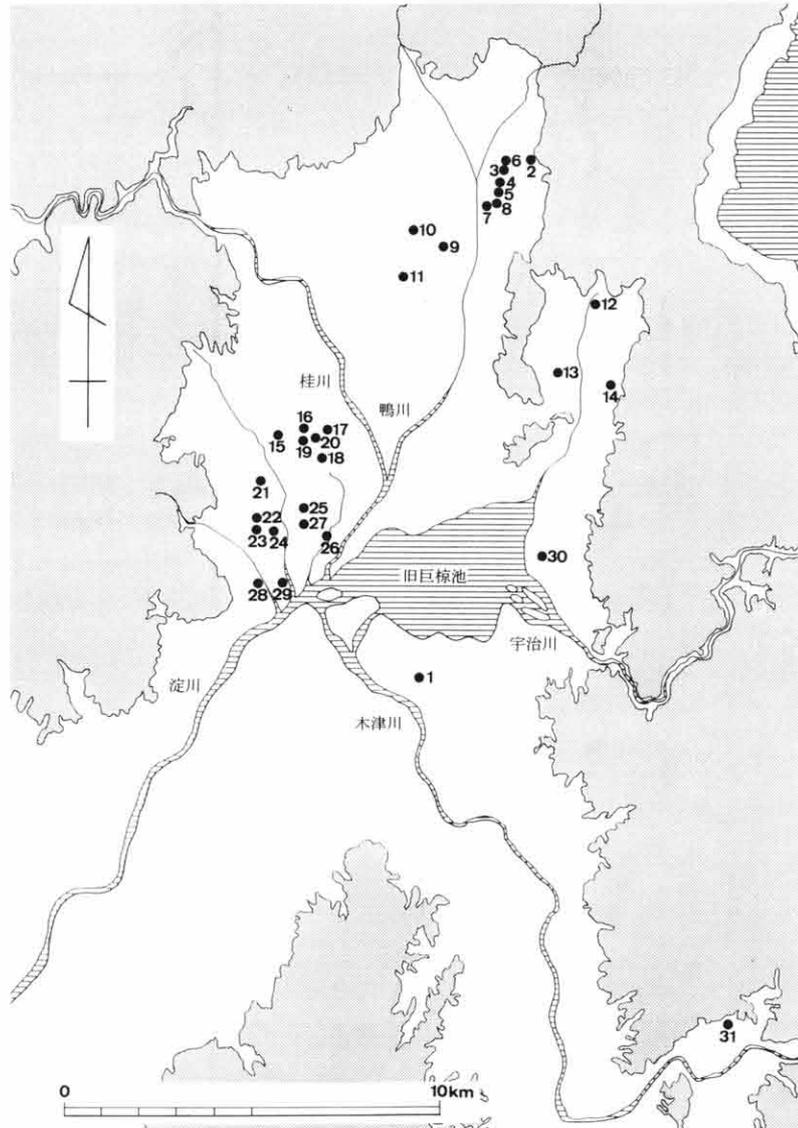
〇字状に刻むものが大半である。

### 3. 土器の組成について

基本的には深鉢形土器(以下深鉢とする)、浅鉢形土器(以下浅鉢とする)それに両者の中間形態といえる砲弾形を呈する土器からなる。深鉢には無突帯・突帯文土器がある。前者は滋賀里Ⅲb式の系譜を引くものと考えられる。また後者は口縁端部外面に一条突帯を貼り付けるものであり、さらにa)突帯上を刻まないものと、b)突帯上を刻むものに分類される。これらの土器は、既報文中ではAからHの7類に分けた(第5図)。また浅鉢はAからDの4分類とした。

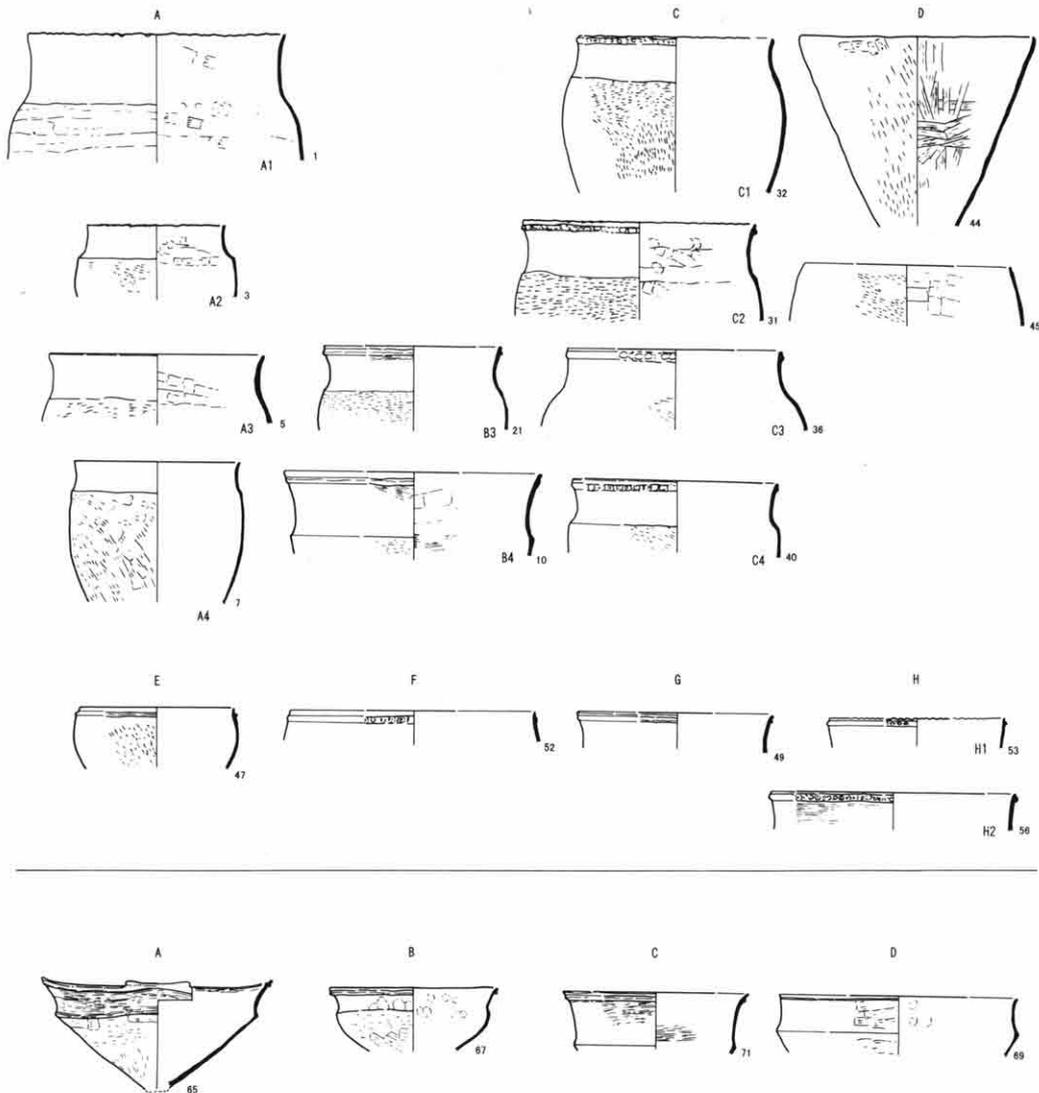
今回はこの中で深鉢のB類について取り上げる(第7図)。B類とした土器は口径が25~30cm前後のものとして30cmを越えるものがある。また、25cm以下の口径のものも若干見られるが、胎土や外面の調整技法も異なっ

ている。器形についてはB3とした胴部が「S」字状に屈曲するものとB4とした「く」字状の屈曲部の明瞭なもの2類がある。器形はA類と共通するが、B類には口唇部(口縁端部)に刻みを施したものは、出土した土器には見られなかったことからこれが特徴と言える。なお、当遺跡における深鉢のAからC類の点数は、A類が9点(9.5%)、B類が33点(35.0%)、C類が40点(42.0%)であり、C類がやや多い傾向にある。



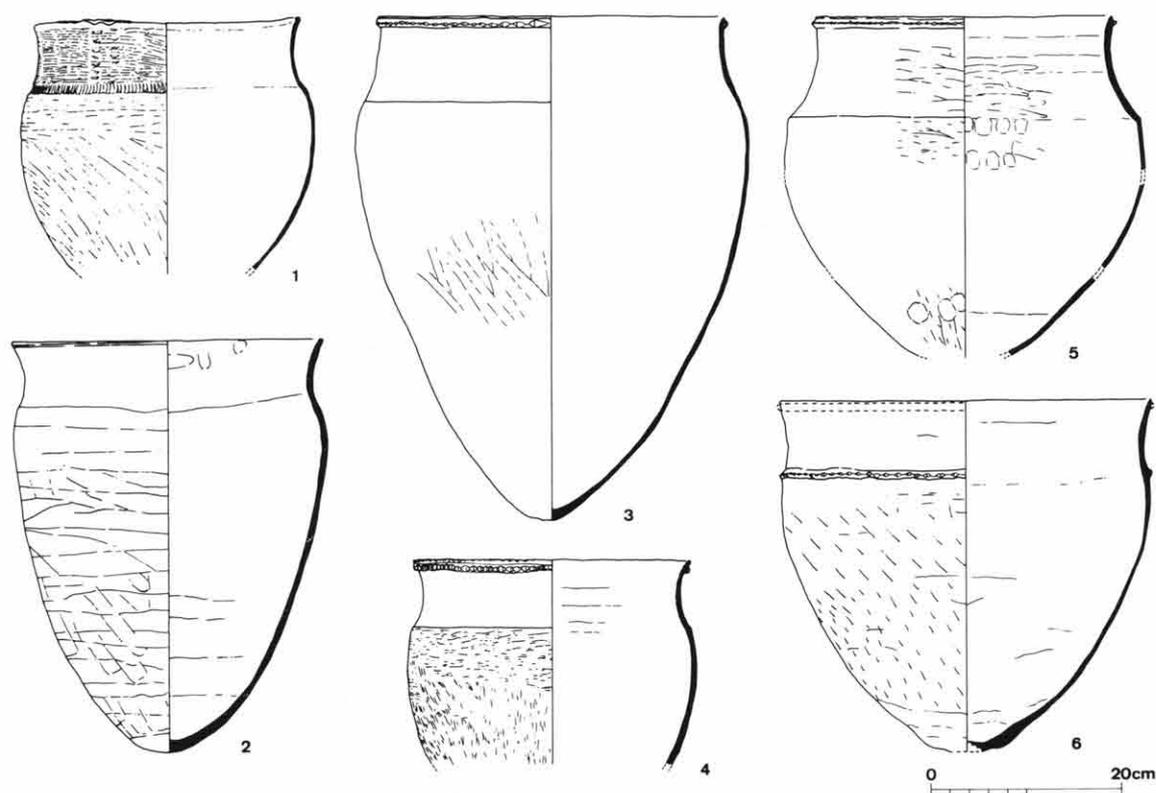
第4図 京都盆地縄文時代(晩期中葉~後葉)遺跡分布図

- |             |                |               |
|-------------|----------------|---------------|
| 1. 佐山尼垣外遺跡  | 2. 北白川廃寺       | 3. 京都大学北部構内遺跡 |
| 4. 京都大学構内遺跡 | 5. 京都大学教養部構内遺跡 |               |
| 6. 北白川追分町遺跡 | 7. 京都大学病院構内遺跡  | 8. 吉田近衛町遺跡    |
| 9. 高倉宮下層遺跡  | 10. 二条城町遺跡     | 11. 坊城町遺跡     |
| 12. 安祥寺舌寺遺跡 | 13. 中臣遺跡       | 14. 大宅廃寺下層遺跡  |
| 15. 中野遺跡    | 16. 洪川遺跡       | 17. 東土川西遺跡    |
| 18. 鶏冠井遺跡   | 19. 森本遺跡       | 20. 石田遺跡      |
| 21. 今里遺跡    | 22. 開田城ノ内遺跡    | 23. 十三遺跡      |
| 24. 開田遺跡    | 25. 馬場遺跡       | 26. 水垂遺跡      |
| 27. 雲宮遺跡    | 28. 百々遺跡       | 29. 下植野南遺跡    |
| 30. 寺界道遺跡   |                |               |



第5図 出土土器分類図

近畿地方において晩期中葉の突帯文土器が出土している遺跡は、滋賀県滋賀里遺跡<sup>(注3)</sup>、奈良県橿原遺跡<sup>(注4)</sup>、大阪府恩智遺跡<sup>(注5)</sup>、鬼塚遺跡そして上記の周辺遺跡でふれた京都府の北白川追分町遺跡などがある。橿原遺跡の当該期の土器で、佐山尼垣外遺跡のB類にあたるものが7点報告されている。資料を実見したが、突帯文土器の大半は突帯上に刻み目を持つ土器であり、器種構成の主流を成すとはいえないようである。滋賀里遺跡では4点が確認できる(第9図1~4)。この資料のなかには、3のように口唇部に刻みを施したもの(佐山尼垣外B1類に該当)がある。また、鬼塚遺跡では縄文(包含層)とした資料が佐山尼垣外遺跡の土器と併行関係にあると思われるが、報告書<sup>(注6)</sup>によると、佐山尼垣外遺跡のB類に該当するものは、数点の破片が見られる。口径を復原できる資料は1点あり(第9図5)、佐山尼垣外のB3類にあたる。一方、佐山尼垣外遺跡と直線距離で約8km離れた北白川追分町遺跡では、当遺跡と併行関係にあると思われる土器が、土坑SK5および包含層から出土している。この土器も実見したがB類の土器は見られなかった<sup>(注7)</sup>。ただ、浅鉢には同様の無刻み突帯のものがSK5から出土している。このSK5出土の深鉢(第6図)は大



第6図 南山城の縄文時代(晩期中葉～後葉) 土器

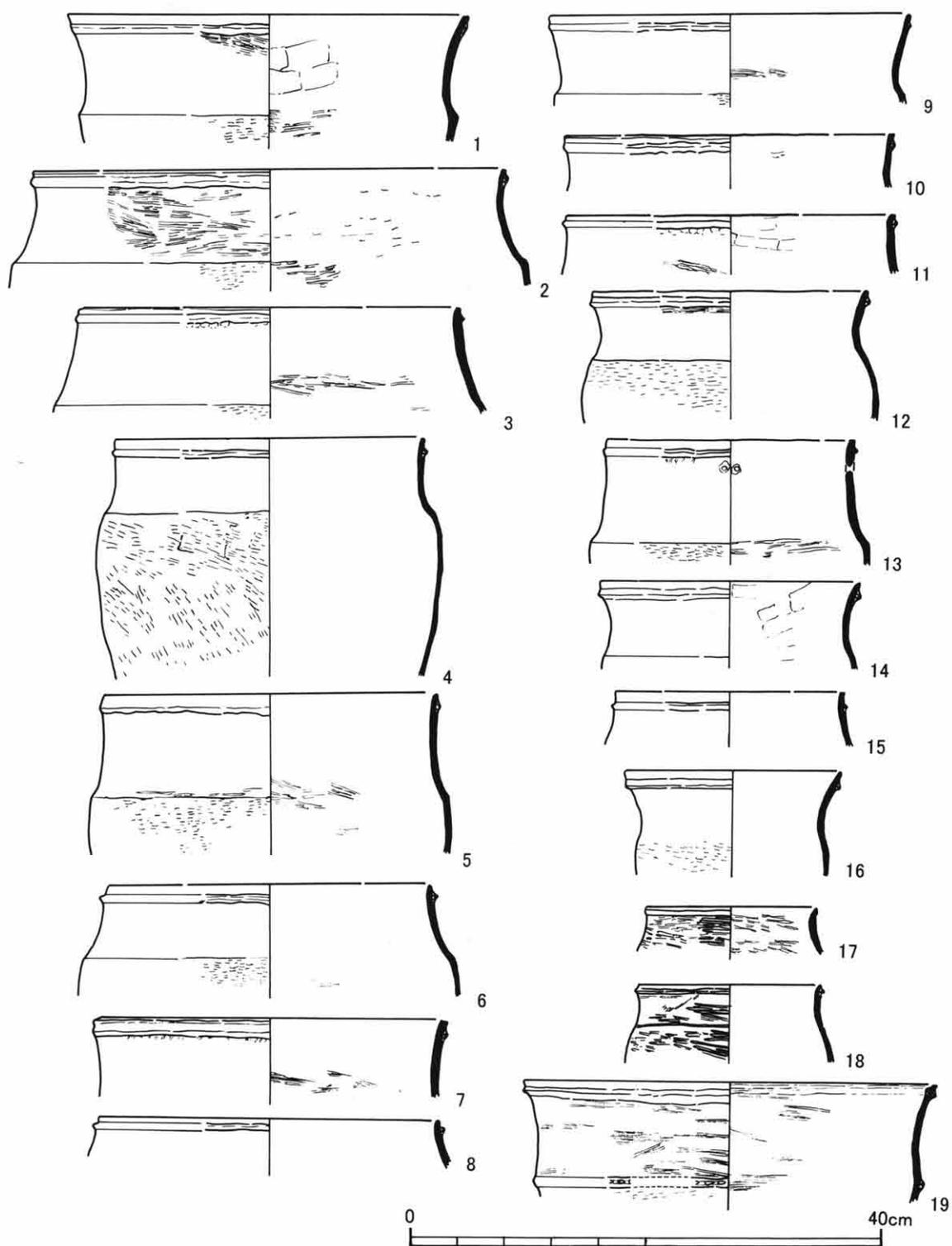
1. 中臣遺跡(篠原式新段階)      2. 馬場遺跡(篠原式新段階)      3. 下植野南遺跡(滋賀里Ⅳ式)  
4. 京都大学北部構内遺跡(滋賀里Ⅳ式)      5. 高倉宮下層遺跡(口酒井期)      6. 開田城内遺跡(口酒井期)

大きく口唇部を刻む滋賀里Ⅲ b 式の系譜を引く無突帯のもの(1～3)と口縁部外面に貼り付け突帯を伴う突帯文土器(4～8)の2類から構成される。この深鉢には浅鉢(10～13)が共伴する。この器種構成は佐山尼垣外遺跡の土器と共通する。

#### 4. 佐山尼垣外遺跡深鉢B類の位置付け (佐山尼垣外段階の設定)

以上、周辺遺跡および近畿地方の遺跡の状況を概観したが、佐山尼垣外深鉢B類の類例は、各遺跡ともわずかに認められるにすぎない。そこで深鉢B類の要素を含むS D 229の出土土器のうち、深鉢A類からC類の器種構成要素を持って佐山尼垣外段階の時期設定を提唱したい。ただし、出土した土器のなかには方形周溝墓の溝と切り合いを持ち、滋賀里Ⅳ式以降の船橋式に併行すると思われるものも含まれるため、それらの土器を引き算して抽出する必要がある。

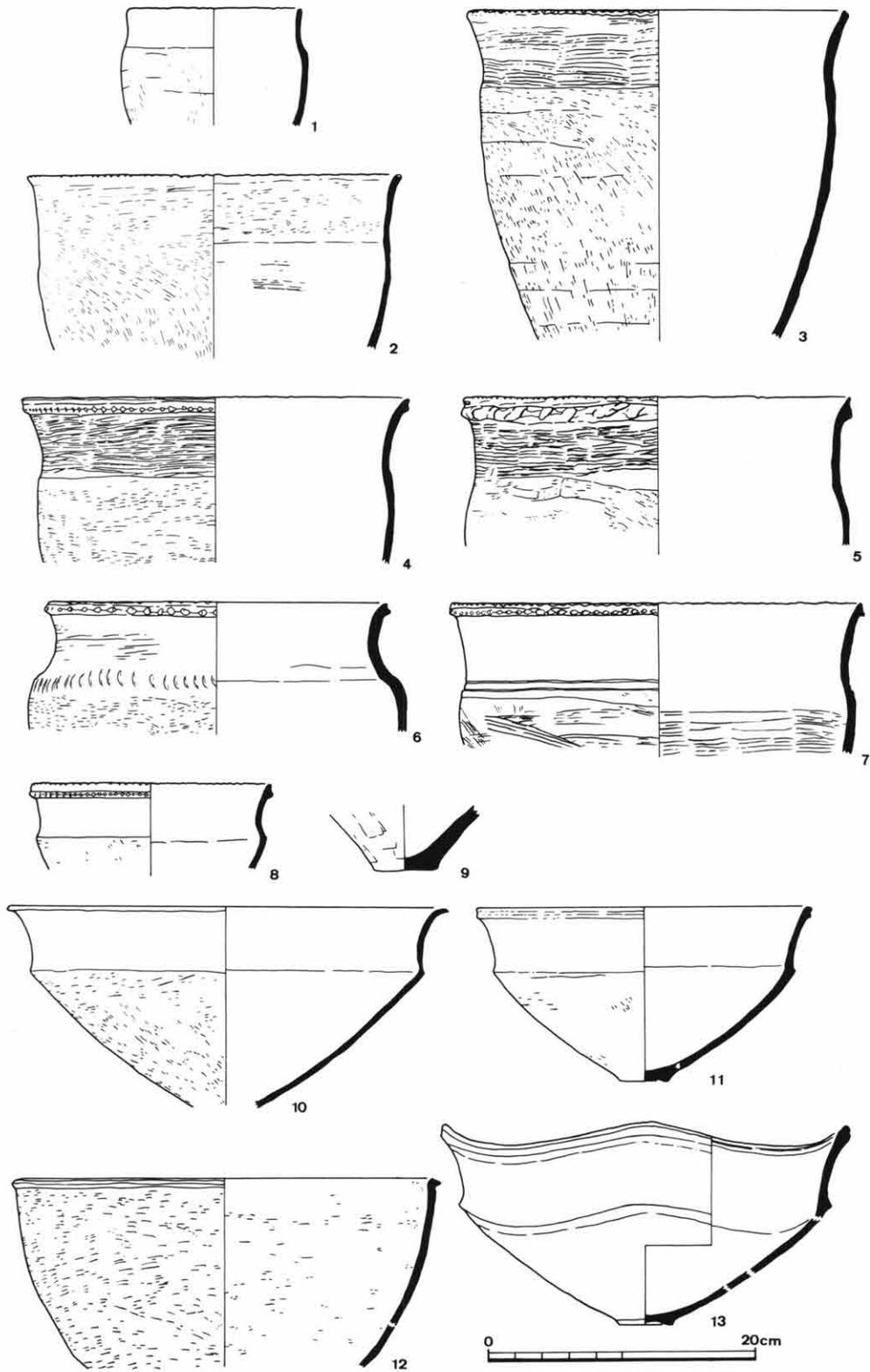
晩期中葉の土器編年との併行関係については、深鉢A類とした突帯を持たない一群が点数は少ないものの器種認定できるため、このA類の土器を滋賀里Ⅲ b 式段階新相(篠原式新段階)の系譜を引くものととらえ、突帯文土器出現期に位置付けたい。そのあとに位置付ける土器群として深鉢B類を置き、突帯上を刻むC類をその後続く段階とし、深鉢A類→B類→C類の形式変化を提唱したい。北白川追分町遺跡S K 5出土土器との関係については既報告書でも触れたが、佐山尼垣外B類の土器群をもって佐山尼垣外遺跡の土器のほうが追分町S K 5の土器群より前段階に



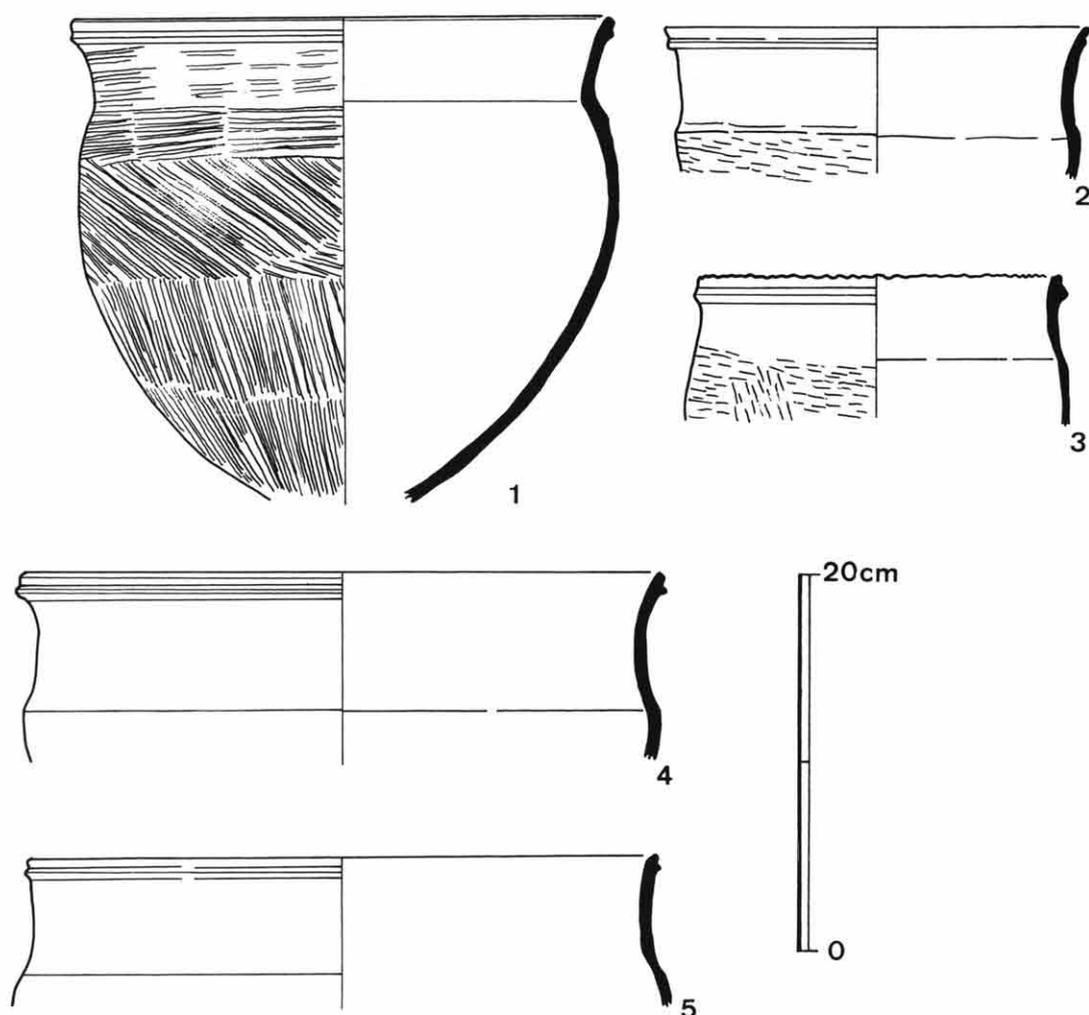
第7図 深鉢形土器B類実測図

位置するものと考える。

その根拠として、①深鉢A類の存在がある。北白川追分町遺跡SK5の資料中にも佐山尼垣外遺跡の深鉢A類とする無突帯土器が3点報告されており、ほかに口径復原のできない破片が2点ある。ただしB類は見られない。②佐山尼垣外遺跡のB類には滋賀里Ⅲb式の要素とされる、頸



第8図 京都大学北部構内SK5出土土器



第9図 佐山尼垣外遺跡深鉢B類対応土器

1～4. 滋賀里遺跡 5. 鬼塚遺跡

部と体部間の「く」字状の屈曲が見られる土器が含まれている。③刻み目突帯文深鉢は佐山尼垣外遺跡の時期にはじまり、口酒井期から晩期末葉あるいは弥生前期初頭とされる長原式段階まで見られる。また、口酒井期以降の刻み目突帯文土器に共伴する、口径の20cm以下の無刻み突帯文土器があるが、この土器については佐山尼垣外遺跡深鉢B類とは異なり、技法の省略化とみたい。

### 5. まとめ

佐山尼垣外遺跡のS D229出土土器について小論を試みた。今回は遺跡周辺および近畿地方に言及したが、近畿地方以外の視野に立ち、東海地域、瀬戸内地域等を含めて検討をする余地はある。また、3. 土器の組成についての中でも触れたが、北白川追分町遺跡では、浅鉢のなかにB類とした上半部の特徴を備えた、無刻み突帯文土器が見られる点など、佐山尼垣外遺跡深鉢B類の成立の系譜をたどる必要も残されている。この点については別稿で触れることにしたい。

(しば あきひこ=当センター調査第2課調査第3係調査員)

- 注1 家根祥多 「篠原式の提唱－神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討－」（『縄文晩期前葉－中葉の広域編年 平成4年度科学研究費補助(総合A)研究成果報告書』） 1994
- 注2 その他の深鉢D～H類の比率については以下の文献を参照されたい。辻本和美ほか「佐山尼垣外遺跡(『京都府遺跡調査報告書 第31冊』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001 pp40～42
- 注3 滋賀里遺跡では佐山尼垣外B類に該当する土器は甕K類に分類されている。
- 注4 檀原遺跡においても佐山尼垣外B類にあたる土器のなかに佐山尼垣外遺跡には存在しないB2類(口唇部に刻みを持つ)にあたる土器が報告されている。(末永雅雄『檀原』(『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第17冊 奈良県教育委員会) 1961
- 注5 恩智遺跡では深鉢Ⅱ類とし2点が報告されている。
- 注6 鬼塚遺跡の器種組成では深鉢Hが、佐山尼垣外B類に該当する。鬼塚遺跡の深鉢Hは縄文Ⅳ(包含層)で深鉢A29.6%に対し、H4.5%、縄文Ⅲ(包含層)でA32.5%、H5.1%、同遺構面で検出した溝35でA34.5%、H1.8%となっている。なお、縄文Ⅳは滋賀里Ⅲb式、縄文Ⅲは滋賀里Ⅳ式に対応する層である。
- 注7 調査担当者の千葉 豊氏によると晩期中葉突帯文土器出現期には刻み目突帯文土器が主流であり佐山尼垣外深鉢B類の土器は特殊といえる。

#### 参考文献

- 田辺昭三編『湖西線関係遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会 1972
- 嶋村友子ほか「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅰ－恩智遺跡の調査－」（『八尾市文化財調査報告14 昭和61年度国庫補助事業』八尾市教育委員会) 1987
- 福永信雄ほか『鬼塚遺跡第8次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会 1997
- 千葉 豊ほか「1987年度京都大学構内遺跡発掘調査報告書」（『京都大学構内遺跡調査研究年報昭和59年度』京都大学埋蔵文化財研究センター) 1973

## 平成14年度発掘調査略報

# 1. 高梨<sup>たかなし</sup>遺跡第2次

所在地 北桑田郡京北町大字周山小字中山54-2ほか  
調査期間 平成14年5月7日～6月7日  
調査面積 約150m<sup>2</sup>

はじめに 今回の調査は、国道162号線周山バイパス整備事業に伴うもので、京都府土木建築部の依頼を受けて実施した。京都の観光名所嵐山より高雄・北山を通り約25kmで高梨遺跡の所在する京北町周山に着く。高梨遺跡は、桂川(大堰川)と弓削川が合流する地点の北側、両河川に挟まれた丘陵の南端に位置する。この遺跡は、周山中学校グラウンド造成工事で竪穴式住居跡が検出され、飛鳥～平安時代の集落遺跡として登録された。



第1図 調査地位置図  
(国土地理院1/50,000京都西北部)

高梨遺跡の所在する丘陵南端には、周山廃寺(府指定史跡)、高梨経塚、周山古墳群などがある。丘陵東側の水田地帯に祇園谷遺跡、南側の丘陵には東山遺跡、桂川右岸には周山瓦窯跡(府指定史跡)がある。

調査の概要 調査対象地は、周山中学校グラウンド造成工事で住居跡が検出された地点から北西方向に約80mの地点で、標高260m前後である。丘陵の緩斜面地で、西側は弓削川に向かって急激に下がる。

「コ」字状に幅3mのトレンチを設定し、重機で表土を掘削した後、人力で掘り下げたが、明瞭な遺構は検出されなかった。攪乱土坑と木根痕跡を確認したのみである。表土層(黒褐色土)から、少量の遺物が出土した。

「コ」字状に幅3mのトレンチを設定し、重機で表土を掘削した後、人力で掘り下げたが、明瞭な遺構は検出されなかった。

まとめ 今回の調査では、顕著な遺構を検出していないが、調査対象地に隣接した造成地断面



第2図 遠景(北から)

に、焼土層が見られることや、周辺から瓦類・土器を採集しているので、住居跡が検出された地点に近い今回の調査地南側では遺構が遺存している可能性がある。

(石尾政信)

## 2. <sup>しもうえのみなみ</sup>下植野南遺跡 (<sup>つつべ</sup>土辺地点)

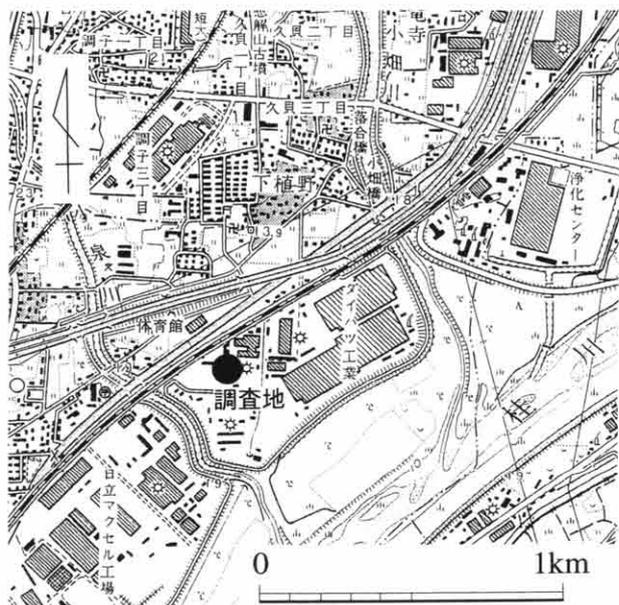
所在地 乙訓郡大山崎町字円明寺小字土辺  
 調査期間 平成14年5月7日～6月21日  
 調査面積 約300m<sup>2</sup>

はじめに この調査は、中央自動車道西宮線大山崎ジャンクション建設工事に伴い、日本道路公団関西支社の依頼を受け実施したもので、平成9年度から継続的に調査を実施しており、今年度は、ジャンクション建設に伴う調査としては最終年度となる。下植野南遺跡は、桂川右岸に営まれた大規模な複合遺跡である。現在までの調査では、弥生時代中期の大規模な方形周溝墓群、古墳時代前期以降の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡、古墳時代後期の円墳など多くの遺構が検出されている。今年度調査は、門田地区、土辺地区、五条本地区の3地区が調査の対象になったが、ここでは調査が終了した土辺地区の概要を報告する。調査地は、昨年度の調査によって、周溝の一部を確認し、円筒埴輪を有する直径15mの円墳が想定されていた第3トレンチ北側延長部分にあたる。

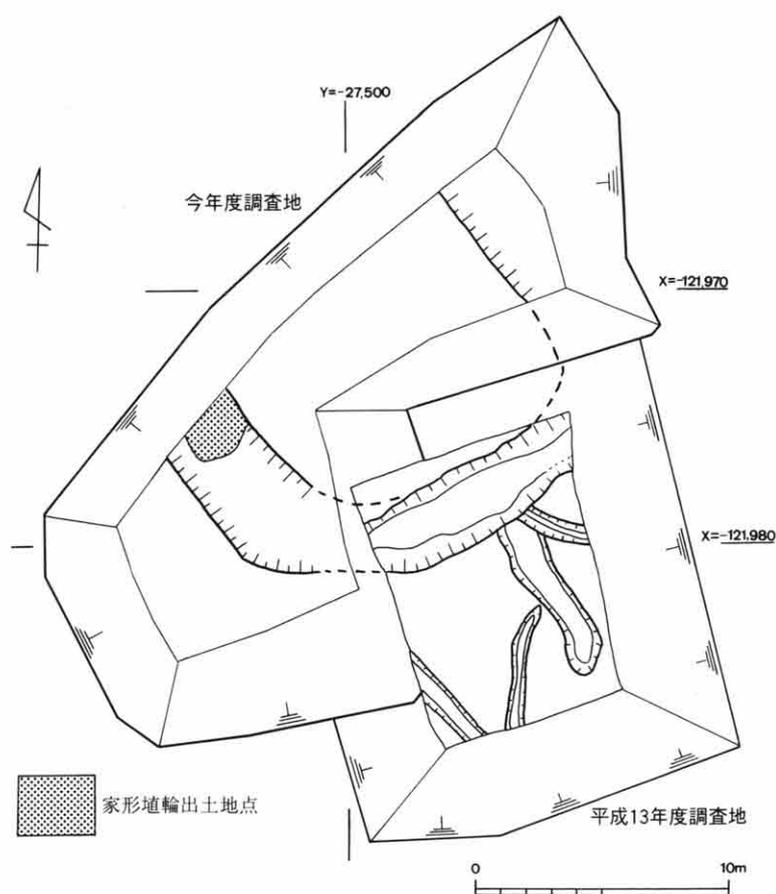
**調査概要** 昨年度調査地の北側と西側にかかるトレンチを設定した。用地の関係上古墳全体の調査を行うことはできなかった。

中世以降と考えられる遺構は、古墳検出面上である標高9m前後で耕作に伴うと考えられる人・牛・馬などの足跡と推定される痕跡が確認できた。これらは洪水に伴い埋まったようで足跡痕には砂が堆積していた。この遺構面は洪水を受けるたびに整地、耕作が繰り返されたようで、部分的ではあるが2～3面ほど認められる。

古墳はこれらの耕作面を除去した段階で検出した。トレンチ東側で推定幅約3m、深さ約0.6m、西側で幅約3m、深さ約0.3mの直線的な周溝を確認した。西側周溝の南端部は東側に屈曲する。前年度の調査では、直径15mの円墳が想定されていたが、周溝の延長部分の検出により、一辺約13mの規模を有する方墳であることが明らかになった。東側周溝からは、円筒埴輪が、西側周溝南側からは円筒埴輪、北側からは良好な状態で家形埴輪などが出土した。家形埴輪・円筒埴輪ともまとめて出土しており、特に家形埴輪は屋根部を下にして転落



第1図 調査地位置図(国土地理院1/25,000淀)



第2図 トレンチ平面図

した様な状態で出土しており、人為的に溝の中に落とされた可能性もある。その後、中世の土地利用に伴い古墳が破壊されていったようで、墳丘および周溝が削平を受けている。周溝検出面付近では前述した足跡が検出されている。削平は東周溝側より西周溝側の方が著しい。西側周溝付近一帯は、下層遺構の存在の確認を行ったところ、流路があったようで周溝底面以下は砂礫の堆積が認められ、削平されやすい状況であったことも考えられる。昨年度調査では調査地より南側に設定した第5トレンチ、東側の五条本地区でも氾濫原および流路などが土

土地利用に伴い整地されていることが確認されており、その後、古墳が築造されたことになる。古墳下層の砂礫層中からは弥生時代中期に比定される土器も出土しており周辺に遺構が存在するものと推定される。

家形埴輪は現在水洗、復原中であるが、二階建ての入母屋造り建物で2間×3間と推定される。窓・入り口を表現したと思われる壁部分も認められるが、内部の状況等は不明である。屋根部分では屋根端に格子状の表現がなされ、軒先には格子状の垂飾りが全周に認められる。復原中のため全体の規模・細部の状況については不明であるが、復原でき次第、本情報で詳細を報告したい。築造時期については、同時に出土した円筒埴輪などから古墳時代前期後半頃に相当すると推定される。

まとめ 今回の調査では、昨年度検出した古墳の周溝の延長部を確認し、墳形・規模を確定することができた。また、家形埴輪が良好な状態で出土し、大山崎町でも数少ない埴輪を持つ古墳となった。古墳と集落の関係についても、古墳時代前期の土地利用に伴う大規模な整地、集落の形成、古墳の築造といった一連の流れを見ることができ、家形埴輪を有する地域の首長墳として、下植野南遺跡の形成を考える上で重要な調査となった。

(増田孝彦)

### 3. <sup>おんなだに</sup>女谷横穴群（B支群）

所在地 八幡市大字内里女谷・美濃山小字荒坂  
 調査期間 平成14年4月10日～6月27日  
 調査面積 約700m<sup>2</sup>

はじめに 女谷横穴群の調査は、国道1号(第二京阪道路)の建設に伴い、平成11年度から実施している。11・12年度には、横穴の有無とその範囲確認を目的として試掘調査を実施し、12・13年度には、隣接する荒坂横穴群とともに、総計45基の横穴を調査した。今回は、B支群の4基(うち1号横穴は平成12年度に墓道部分を調査)の調査(第4次)を行った。

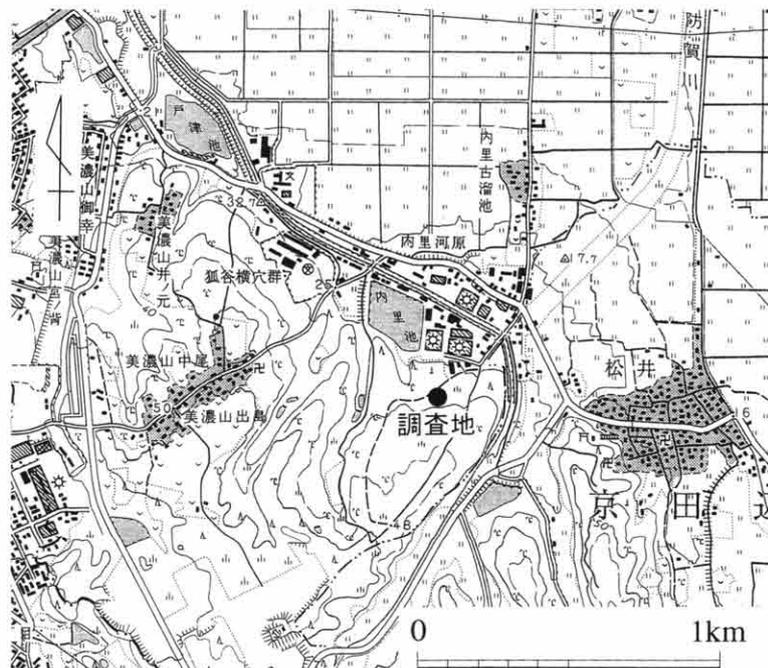
調査の概要 女谷横穴群は、横穴が分布する谷の違いにより、A～C支群に分けられる。A支群は発掘調査を実施していないので、その基数は不確かであるが、分布調査では、8基の横穴が確認されている。C支群は8基、B支群は今回の調査を含めて、18基(以上)の横穴で構成されている。調査地は、B支群の西半分とA・C支群の間の谷部に位置している。

調査により、新たに、16～18号横穴の3基の横穴を確認した。1号横穴は、玄室のみの調査で、3面にわたって遺物の出土を見た。1体の人骨も残存していた。16号横穴は3面の埋葬面があり、4体分の人骨を検出した。17号横穴は、横穴構築直後に厚く整地を行っており、最大1mの厚さにわたって暗黄褐色砂を敷き詰めていた。この横穴では、埋葬面は1面だけであったが、一埋葬面で5体分の人骨を検出した。これら、1・16・17号横穴で検出した人骨は、すべて、人為的に動かされた状況であった。18号横穴は、埋葬面は1面を確認し、須恵器・土師器とともに、鉄地金張の胡録金具が出土した。

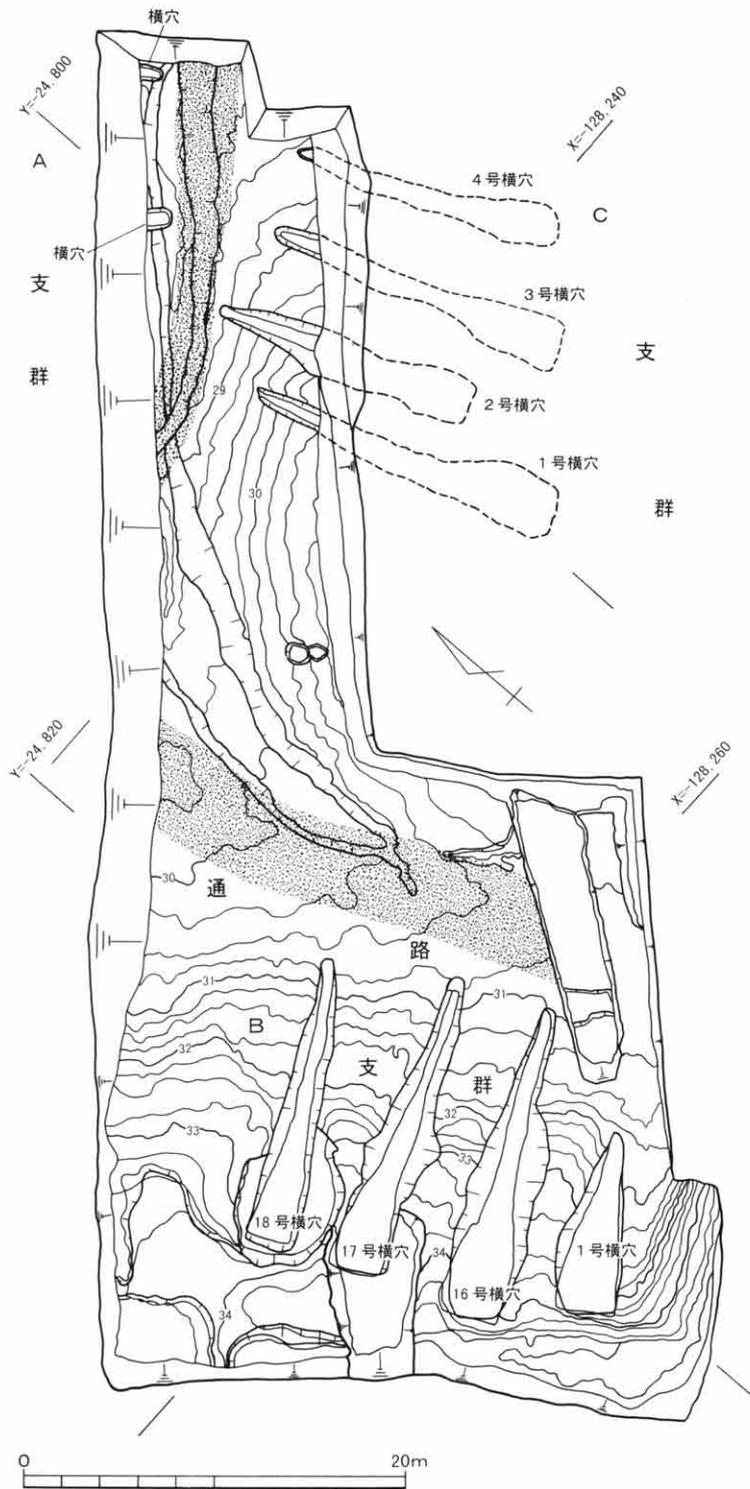
C支群では、昨年度に調査した1～4号横穴の墓道部分を検出した。これらの墓道は、今まで確認していたように、墓地内通路の直前で、墓道の掘削が終わっていた。

A支群の分布する丘陵裾部では、土坑状の遺構を2基確認した。この土坑には、黄褐色砂が詰まっており、横穴の墓道端と判断された。

谷部では、時期不詳の溝を確認した。一昨年度の調査成



第1図 調査地位置図(国土地理院1/25,000淀)



第2図 遺構配置図(網部通路)

の系譜を考える上で重要である。また、横穴の閉塞方法に関しても新知見が得られ、人骨の検出状況とともに、当時の葬送儀礼を考える上で貴重な資料となろう。

果より、平安時代中頃～中世にかけての通路に伴う排水溝と判断される。B支群の東半で検出していた古墳時代の排水溝は確認できなかったが、谷底に礫混じりの暗茶褐色土が分布しており、当時の路面を形成していたものと判断される。この通路は、一旦、調査地外に伸び、再びA・C支群の間で、断面「U」字形の溝状の通路となって、北東方向に下っていく。

まとめ 女谷・荒坂横穴群では、3年にわたる調査により、総計50基の横穴を調査した。それぞれの横穴の残り具合が良かったこと、数多くの横穴を面的に調査できたことで、多くの知見を得ることができた。各支群の分布や支群を構成する小群の分析により、墓域を経営した集団の関係は言うに及ばず、南山城地域の集団関係を知ることができよう。横穴の構造についても、墓道端までの調査を実施することができ、その全体像を明らかにすることができた。このことは、南山城地域の横穴

(岩松 保)

## 4. <sup>あらかさ</sup>荒坂遺跡

所在地 八幡市美濃山字御毛通  
 調査期間 平成14年4月10日～5月16日  
 調査面積 約700m<sup>2</sup>

はじめに 荒坂遺跡の発掘調査は、日本道路公団関西支社が施工する国道1号(第二京阪道路)建設に伴う事前調査である。荒坂遺跡は、平成4年に同事業に伴って発掘調査が実施され、弥生時代の土坑、一辺約21mを測る5世紀初頭の方墳、時期不詳の掘立柱建物跡群が確認されている。

今回の調査地点は、平成4年度の調査地に隣接しており、関連する遺構、遺物の検出が予想された。なお、第1トレンチでは、約400m<sup>2</sup>の面的調査を行うとともに、第2・3トレンチでは、約200m<sup>2</sup>の試掘坑を設定して遺構、遺物の検出につとめた。

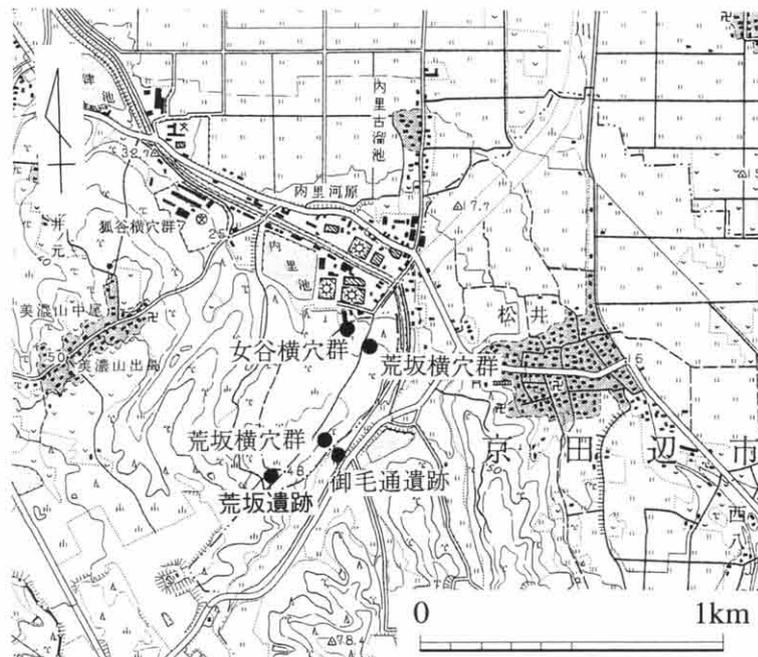
**調査概要** 第1トレンチでは、サヌカイトの母岩が出土した土坑を1基確認するとともに、同質の埋土が堆積している土坑を数基確認した。土坑からは他の遺物が出土しておらず、明確な時期を比定することはできないが、サヌカイトの母岩の形状から縄文時代に帰属する可能性を指摘することができる。

第2トレンチでは、主軸が真東西と一致する時期不詳の溝と近世～近代にかけての土坑を確認した。平成4年度調査A地区の北隣接地点にあたるが、関連する遺構、遺物は検出できなかった。

第3トレンチは、第1トレンチの南方に位置する谷地形上に設定したトレンチである。近世後期の染付磁器などが出土したが、明確な遺構は検出できなかった。なお、トレンチ北端では、埋没した谷部を検出したが、遺物は出土しておらず、埋没時期等の委細は不明である。

**まとめ** 今回の調査では、縄文時代に推定できる土坑を検出したが、平成4年度の調査成果と関連する遺構、遺物の検出はできなかった。今後、周辺での検出遺構も含め、総合的に検討する必要がある。

(小池 寛)



調査地位置図(国土地理院1/25,000淀)

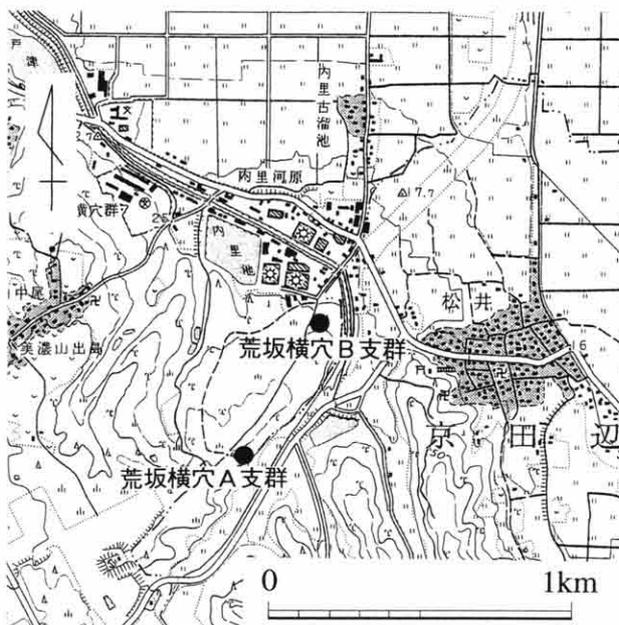
## 5. <sup>あらさか</sup>荒坂横穴群 (A・B支群)

所在地 八幡市美濃山荒坂・御毛通  
 調査期間 平成14年4月15日～6月27日  
 調査面積 A支群：約680m<sup>2</sup>・B支群：約360m<sup>2</sup>

はじめに 調査は日本道路公団関西支社の依頼を受けて、国道1号(第二京阪道路)の建設に伴う事前調査として実施した。荒坂横穴群が所在する地域は、舌状に延びる丘陵の裾部に横穴が数多く分布する周知の遺跡である。平成11・12年度に建設予定地内を試掘調査した結果、丘陵の西側斜面に埋没した横穴を検出し、新たな横穴の分布を確認した。それを受けて、荒坂横穴群では、平成13年度に横穴22基(荒坂横穴B・C支群)を調査した。今年度は、A支群の南端部の丘陵斜面1か所とB支群側の丘陵頂部で2か所の調査を実施した(第1図)。

**調査概要** 今回の調査は、丘陵の東側に連なって分布している荒坂横穴A支群の南端部分近くで試掘調査を行い、確認した2基の横穴と横穴状の導水施設を調査した。そして、平成13年度に京都府教育委員会が丘陵西側斜面に所在する荒坂横穴B支群の丘陵頂部で実施した試掘調査で遺構・遺物を検出した地点の2か所(B-1区・B-2区)の調査を調査した。

①荒坂横穴A支群 丘陵の東側斜面を調査した結果、新たに西側に入り込む谷地形を確認した。谷地形の北側斜面で、横穴2基(23・24号横穴)と横穴状の導水施設5基(1～3)を検出した。南側斜面には横穴状の導水施設2基(4・5)を検出した(第2図)。検出した横穴は、南に開口する。埋葬面は各横穴で2面確認し、初葬面から遺物が出土した。出土した遺物は須恵器の杯や土師器の壺などの土器類で、鉄器や玉類などの副葬品は出土しなかった。導水施設とした遺構は、調査



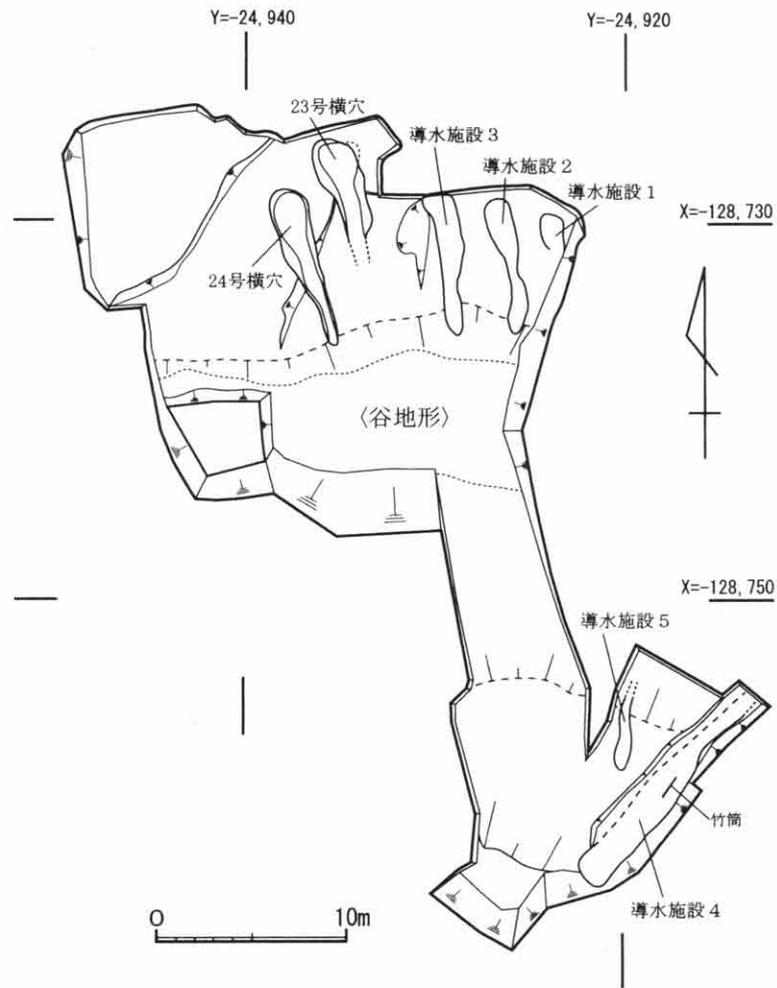
第1図 調査地位置図(国土地理院1/25,000淀)

当初は開口方向や形状・規模などが似ているため横穴と考えていた。しかし、北側斜面に並ぶ3基の遺構は、西側の2基の横穴よりも床面が2m近く深く掘り下げられおり、遺物は少量出土するものの埋葬面は確認できなかった。また、これと同様の遺構が平成4年度調査でも確認されている。床面には竹筒が据えられおり、近現代に田畑に水を引くために造られた導水施設として報告されていることから、今回の5基の横穴状遺構についても同様の導水施設であると判断した。

②荒坂横穴B支群 丘陵頂部で2か所の

トレンチを設定し、南側のトレンチをB-1区、北側のトレンチをB-2区とし調査を実施した。B-1区では、中世の遺物を包含する溝を検出したが顕著な遺構は確認できなかった。B-2区では、旧地形の谷部分を検出した。

まとめ 荒坂横穴A支群では、横穴2基と導水施設5基を検出した。今回の調査地はA支群内の南側に位置し、過去の調査でもこれより南側では横穴が確認されていない。このことから、今回調査した地点が横穴の分布する南端部である可能性が高い。横穴状の導水施設については、近現代



第2図 荒坂横穴A支群遺構平面図(1/200)

に造られた導水施設であると判断した。しかしながら、北側斜面の導水施設に関しては、開口方向が同一方向であることや形状・規模が横穴と似ていること、さらに埋土から横穴と同時期と考えられる須恵器の甕の破片が出土していることから、横穴を後世に導水施設に改変した可能性も考えられる。

荒坂横穴B支群では、丘陵頂部で2か所のトレンチを設定し調査したが、中世の遺構のみで顕著な遺構は確認できなかった。しかしながら、遺構には伴っていないが埴輪片も出土していることから、横穴を造る際に古墳が破壊されたか、後世に削平された可能性が考えられる。

今回の調査では、荒坂横穴A支群の南側で2基の横穴を確認したことから、横穴分布の南限を想定することができた。このことから、舌状に延びる丘陵の東側斜面には、北側の先端部だけではなく南側まで多くの横穴が分布している可能性が高くなった。

(村田和弘)

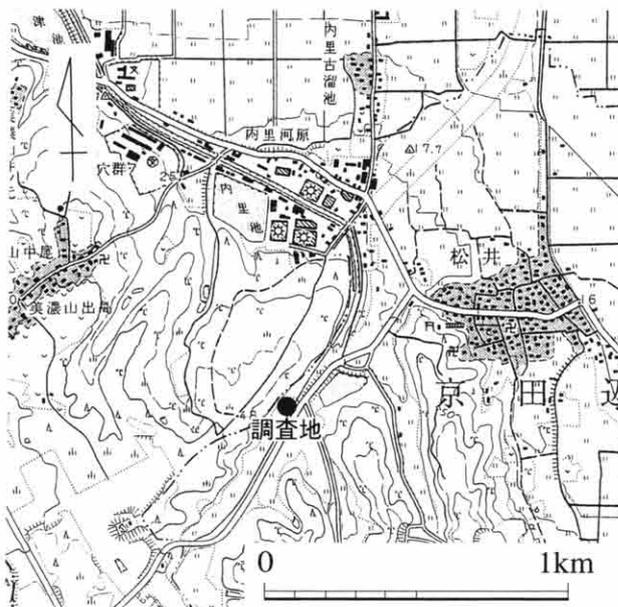
## 6. <sup>ごけどおり</sup>御毛通遺跡

所在地 京田辺市松井字梅谷  
 調査期間 平成14年4月10日～5月10日  
 調査面積 約400m<sup>2</sup>

はじめに 今回の試掘調査は国道1号(第二京阪道路)建設に先立ち、日本道路公団関西支社の依頼によって実施した。御毛通遺跡は散布地として周知されていた遺跡であるが、性格について発掘調査が実施されたことがなく不明であった。調査地は、八幡市との市境に近接する谷部の水田面に位置している。調査地西側では、荒坂横穴・女谷横穴などが存在することから、この水田面西側の丘陵斜面にも古墳時代の横穴墓が存在する可能性があり、調査対象地内の平坦面には生活遺構が、丘陵斜面裾部には、横穴の墓道端が発見される可能性が指摘できた。このため、遺跡の性格を知るため試掘トレンチを設定し調査を実施した。

**調査概要** 発掘調査は、横穴の墓道端が発見される可能性のある斜面裾部に長さ約80m、幅4m、その中央部に取り付くように長さ20m、幅4mの試掘トレンチを「T」字状を呈するように設定した。

調査の結果、地表下20cmまでが耕作土、その下には部分的に床土が認められたが、それ以下の土層はシルト、砂、礫がラミナ状の堆積を見せており、河川堆積による地層と考えられる。部分的に地表下4mまで重機で掘削したが、安定した生活面はまったく認められなかった。なお、湧



調査地位置図(国土地理院1/25,000淀)

水のため地表下1.5～2mまでしか面的には調査できなかった。また、丘陵裾部についても急激に旧谷部に落ち込むため調査区内の掘削深度では、確認することができなかった。

出土遺物は数点あるが、表土層、床土層からの出土であり水性堆積物の堆積年代を示す遺物は検出できなかった。遺物には須恵器片、染付け陶磁器片などがあるが、須恵器片は著しく磨滅しており原位置から遠く離れていると考えられる。調査地の現地形が安定した時期を染付けが示しているものと想定できる。

(中川和哉)

## 7. はたのまえ 畑ノ前遺跡第6次

所在地 相楽郡精華町大字植田小字畑ノ前17-5ほか  
 調査期間 平成14年4月15日～6月13日  
 調査面積 約380m<sup>2</sup>

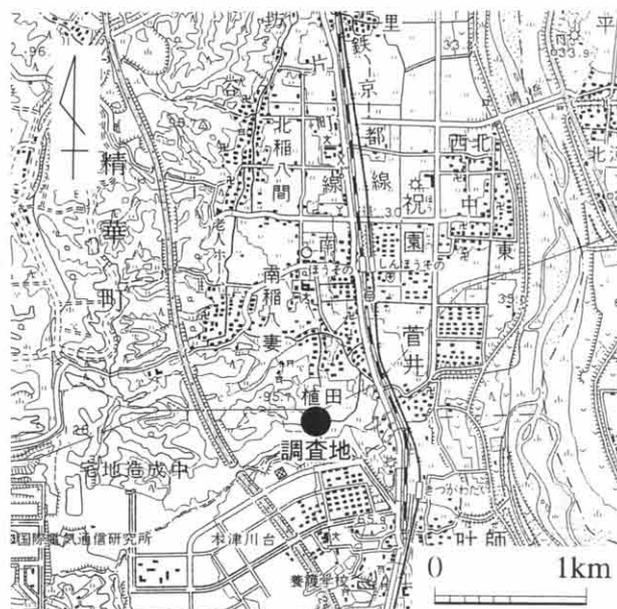
はじめに 今回の調査は、府道山手幹線の建設に伴う事前発掘である。当遺跡の調査は昭和59・60年度に(財)古代学協会により精華ニュータウンの建設に伴う発掘が実施され、弥生時代中期の竪穴式住居跡や土坑に伴い土器片などが出土した。また、墳丘が削平された6世紀後半の小円墳を主体とする古墳群および奈良時代の掘立柱建物跡群が検出され、遺物として同時期の土器や軒瓦片が出土した。平成10年度には、北側隣接地を当調査研究センターが調査を行った。その調査概要によると、調査地は、谷および斜面にあたる場所であり、前回の調査に見られたような顕著な遺構は検出されなかった。今回の調査は第6次調査となる。調査地は、畑ノ前遺跡と畑ノ前東遺跡にかかる場所である。現状では東西方向の道路である精華大通りと南北方向となる山手幹線との交差点部分にあたる。なお、調査にかかる費用は京都府土木建築部が負担した。

**調査の概要** 調査地は農道部分を生かすため、合計3か所に分断した。調査の便宜上、位置関係から北・南および東調査区として説明する。検出した遺構は、弥生時代中期と奈良時代および中世の3時期である。以下、おもな遺構について述べる。

古墳時代の遺構としては、竪穴式住居跡がある。一辺約5mを測り壁際に周壁溝を持つ。主柱穴は2つを検出した。また、北調査区北東隅で検出した土坑は、古墳の主体部に副葬された遺物の廃棄土坑と考えられる。この土坑から須恵器片や耳環が出土した。

奈良時代の遺構としては、北調査区の南西寄りで幅約0.6mを測る溝を検出した。この溝は、調査区の西壁際で南側へ屈曲し南調査区へ延び調査区外に及んでいる。この溝に区画された南側では東西2間×南北1間以上の掘立柱建物跡を1棟検出した。また、北調査区の南東部からは幅約4m、深さ約0.3mを測る溝を検出した。平面形が弧状を呈しているところから、古墳の周濠の可能性も考えられる。この溝の埋土中から8世紀前半を中心とする土師器・須恵器などがまとまって出土した。

中世の遺構としては、北調査区中央付近



調査地位置図(国土地理院1/50,000奈良)

から東調査区にかけて検出した耕作に伴う畝溝群がある。この溝群には、東西方向と南北方向を示すものが見られた。

出土遺物としては、遺構は確認されていないが、縄文時代の石鏃・石匙などの石器、弥生時代中期中葉の土器および石器などがある。また、古墳時代の須恵器、耳環(金環)1対、奈良時代の土師器・須恵器、縄目タタキの軒平瓦が出土した。中世の遺物としては、古瀬戸の四耳壺片などがある。

まとめ 今回の調査では、第2次調査の成果を補足する貴重な資料が得られた。遺構の広がり、今回調査地にとどまるものではなく、さらに、煤谷川への傾斜面までの丘陵部に広範に存在する可能性がある。今回の調査では、確証は得られなかったが、調査地近辺に古墳が存在していたことを示す須恵器および耳環が出土した。また奈良時代の成果として、大小の溝や掘立柱建物跡を検出した。

以上のように、畑ノ前遺跡の土地利用の一端をうかがえる資料を得ることができた。

(柴 暁彦)

#### 参考文献

川西宏幸ほか『京都府(仮称)精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書—煤谷川窯跡・畑ノ前遺跡—』  
精華町教育委員会・(財)古代学協会 1987

岩松 保「畑ノ前遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第86冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1999

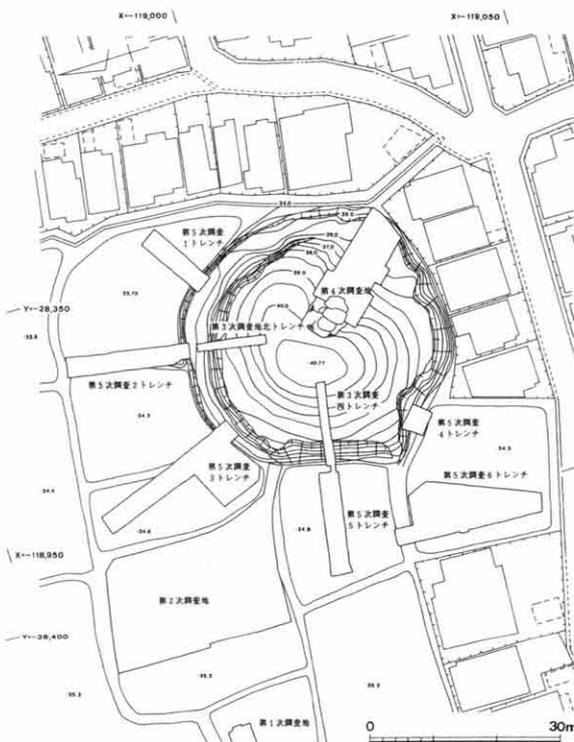
畑ノ前東古墳群 第1回京都府埋蔵文化財研究集会資料

いまざとおおつか  
92. 今里大塚古墳

京都盆地の南西部にあたる乙訓地域に分布する古墳群は、大きく3つのグループに分けられている。それぞれのグループ内では、古墳時代前期から中期にかけての首長墳の系譜に連なる大型古墳が築造される。今回紹介する今里大塚古墳は、巨石を用いた古墳時代後期末の横穴式石室墳で、乙訓地域では最後に築造された首長墓として位置付けられている。

古墳は、西山山麓から東に向かってなだらかに傾斜する扇状地の端部に立地する。現在は周囲が住宅や駐車場に取り囲まれた状態であるが、かつては、水田の中に石室の巨石が露出しており、「ドルメン」のようだと紹介されたこともある。

1968年に京都府教育委員会によって測量調査が行われ、周濠を伴う径約45m、高さ約5.5m程の円墳で、横穴式石室は、天井石が石室内に落ち込んでいるものの、玄室の長さ約6mという山城地域でも屈指の規模をもつことが判明した。周濠は、その後の調査で幅約20mの規模をもつことがわかったが、西側外周部が円弧状にめぐらず、現在は完全に削平されているが、西側に前方部を向ける全長約80m級の前方後円墳になる可能性がでてきた。葺石、埴輪は確認されていない。

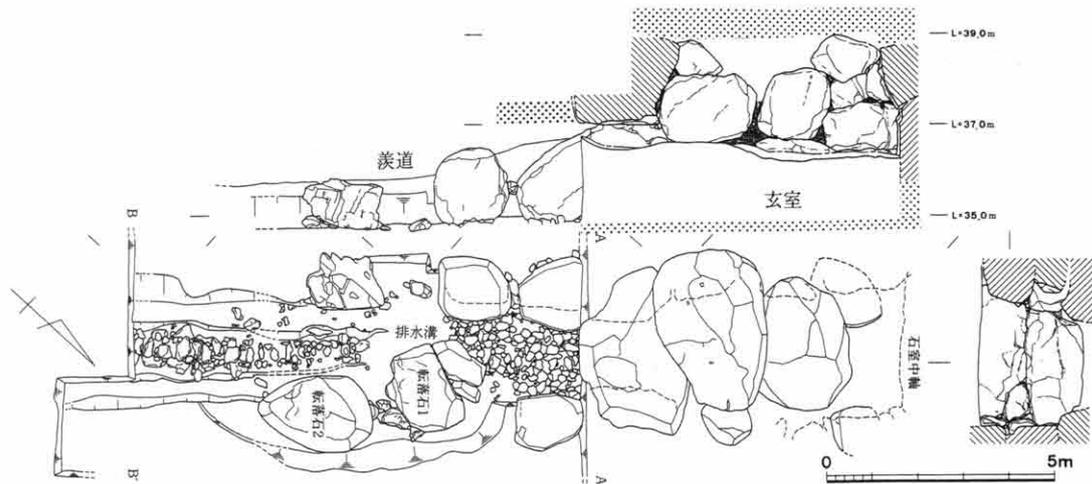


第1図 墳丘および調査区配置図  
(参考文献aから一部改変して転載)

1989年には、市史編さんの一環で大阪大学文学部考古学教室によって墳丘の再測量と石室の実測調査が行われ、また、その後の周辺整備を目的とした数次の調査によって古墳の全容が明らかになりつつある。

これまでに判明したことを述べると、横穴式石室は、南東方向に開口する両袖式の石室で、玄室長5.5m以上、幅約3m、高さは復原で約3.6mを測る。

は長さ約7.5m、幅約1.9m、高さは約2.15mに復原され、石室の全長は13m以上になる。玄室の奥壁は2段積みで、上段の石材はやや内側に傾斜させ、また、玄門部に架けられた見上げ石も玄室内側に向かって傾斜させる。石室の石材は、長辺が2m以上で、重さは30~40トンと想定される。石材種は火成岩の一種である緑色岩



第2図 横穴式石室実測図 (参考文献aから一部改変して転載、天井部・床面は推定復原)

類で、約1km程離れた丘陵地から運ばれたと推測されている。羨道の床面には礫が敷かれ、さらに玄室に延びる石組みの排水溝が設けられている。石室内部は攪乱を受けており、古墳に伴う遺物は、耳環、短刀、須恵器などごく少量である。石室内からはこの他に、大阪府と奈良県の境に所在する二上山の凝灰岩で作られた組合式家形石棺の破片が出土している。なお、羨道部から長岡京期の土師器や須恵器、土馬、ミニチュア竈などの遺物が多数出土しており注目される。おそらく長岡京の造営時に古墳の石室を壊し、建物などに使用する石材を持ち去ったものと思われるが、祭祀に係わる遺物が含まれており、破壊に際して古墳の被葬者の靈魂を鎮め、災いを祓う儀式が行われたものと考えられている。

古墳の築造時期については、須恵器の年代から7世紀前半に位置付けられる。巨石を使った石室の形態は、奈良県明日香村の石舞台古墳に類似するもので、このような型式の石室は、当時の政治の中心地であった大和以外では、例の少ないものである。玄室長が5.5mを越える横穴式石室墳としては、京都府内では、太秦地域の蛇塚古墳(6.7m)と双ヶ岡1号墳(6.25m)があるが、今里大塚古墳は、これに次ぐ規模をもつ。また、墳形が前方後円墳と推測されること、石室に納められた石棺材が、この地域では希少であることなどもこの古墳の占める位置を窺わせる。

最初に述べたように、乙訓地域では、おおむね6世紀の後半で首長墳の築造が終わるとされているが、今里大塚古墳は、この直後に出現する巨石墳であり、被葬者は、単に乙訓の地域にとどまらず、より広い範囲を掌握した権力者と推測される。



第3図 案内図

**遺跡の案内** 長岡京市天神五丁目108に所在。阪急京都線長岡天神駅から阪急交通バスで舞塚バス停下車、南西へ徒歩約400m。古墳の周囲は、現在、公園になっており、石室は保護のため埋め戻されている。

参考文献 a. 山本輝雄「右京第657・633次調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成11年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター)2001、  
b. 長岡京市史編さん委員会編『長岡京市史本文編1』1996、c. 同『長岡京市史資料編1』1991

(辻本和美)

## 長岡京跡調査だより・82

前回『たより』以降の長岡京連絡協議会は、平成14年5月22日・6月26日・7月24日に開催された。報告のあった京内の発掘調査は宮内4件、左京域4件、右京域7件であった。京域外の5件を併せると、合計20件となる。

調査地一覧表(2002年7月末現在)

番号	調査回数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第411次	7ANFMK-17	向日市上植野町南開61-4	(財)向日市埋文	4/18～5/9
2	宮内第412次	7ANFMK-18	向日市上植野町南開61-4	(財)向日市埋文	4/18～5/7
3	宮内第413次	7ANFOC-11	向日市上植野町御塔道26-10	(財)向日市埋文	5/27～6/7
4	宮内第414次	7ANEHJ-9	向日市鶏冠井町祓所27-3、28-3	(財)向日市埋文	6/18～7/9
5	左京第472次	7ANFKW-4	向日市上植野町桑原15-2	(財)向日市埋文	4/16～5/2
6	左京第473次	7ANEUK-4	向日市上植野町馬司1番地	(財)向日市埋文	6/17～12/20
7	左京第474次	7ANFGT-2	向日市上植野町後藤14-1他	(財)向日市埋文	6/19～7/17
8	左京第475次	7ANEUK-4	向日市森本町野田1-1	(財)向日市埋文	6/24～7/24
9	右京第735次	7ANSSR-8	大山崎町字円明寺小字里後14-1他	大山崎町教委	4/30～8/9
10	右京第736次	7ANKST-11	長岡京市開田二丁目213	(財)長岡京市埋文	5/22～6/10
11	右京第737次	7ANKST-12	長岡京市開田二丁目232-1	(財)長岡京市埋文	5/27～5/30
12	右京第738次	7ANIHN-4	長岡京市今里二丁目15-3他	(財)長岡京市埋文	6/5～6/30
13	右京第739次	7ANLKR-5	長岡京市馬場2丁目12-1他	(財)長岡京市埋文	6/4～6/11
14	右京第740次	7ANINC-14	長岡京市今里二丁目232他	(財)長岡京市埋文	6/10～9/17
15	右京第741次	7ANKHT-8	長岡京市開田四丁目718-1	(財)長岡京市埋文	6/17～7/19
16	久々相遺跡第8次	7AKBKG-4	向日市寺戸町久々相13-2	(財)向日市埋文	6/4～6/14
17	大山崎町第46次遺跡範囲確認調査	7YYMSWD-3	大山崎町大山崎早稲田地内	大山崎町教委	4/8～5/31
18	大山崎町第48次遺跡範囲確認調査	7YYMSIB	大山崎町円明寺小字稲葉4-1他	大山崎町教委	6/24～9/30
19	大山崎町第49次遺跡範囲確認調査	7YYMSHK	大山崎町円明寺小字開3-3他	大山崎町教委	6/27～10/31
20	下植野南遺跡		大山崎町下植野五条本、土辺	(財)京都府埋文	4/10～7/30

## 長岡京跡発掘調査抄報

**右京域** 右京第735次調査地は、緩やかに東へ傾斜する久保川の扇状地に立地する。遺跡は、右京九条三坊十町に推定され、縄文時代から中世にいたる久保川遺跡に当たる。調査の結果、8世紀中頃から9世紀に比定される池跡(S G 4)や礫敷き遺構等が発見された。池跡の範囲は調査区外に及ぶため、その規模や形状は明らかではないが、周辺の地形から面積は1,600㎡を超えるものと推測されている。池汀の外側縁辺部は僅かな段差を設けて整地され(傾斜角3°)、そこに礫が敷かれ、州浜を形成する。池底は深さ30cmを測り、池汀では緩やかな傾斜で立ち上がる。池の造作は古墳時代の流路(S R 5)の上面を整地しており、ここでも礫が敷かれている。なお、岸付近の池底から柱穴2基(一辺70cmの方形掘形で柱間は約3m)が発見され、この池跡に伴うものとされているが、その性格は不明である。

出土遺物は、須恵器、土師器、緑釉陶器、墨書土器(須恵器杯蓋の外面に「山」の墨書)などがある。平城宮土器編年のⅢ期を示す須恵器杯が多く、これらの遺物は州浜や池の埋没土から出土したもので、池跡の存続した時期が窺える。珍しい遺物として紹介された「墨書石」は、砂岩を平らに加工(厚さ25mm)し、両面に墨書されたもので、片面には中心から外へ、さらに中心に結ぶ一筆書きの渦巻き文が大きく描かれている。さらにもう一方の面には、小さな渦巻き文を中心にしてそれを取り囲むように「王」(3文字)、「神」(1文字)、「鬼」(3文字)が配されている。渦巻き文は、病気を封じ込めるものとされ、呪術的性格を示しているものと考えられる。

以上の調査成果からこの池跡、礫敷き遺構は、庭園の一部を構成するものと結論されている。なお、池の給水や排水施設については未確認であり課題として残るが、調査担当者は、池の礫敷き遺構の段差からの湧水で給水したものと想定されている。この庭園遺構については、その所有者は貴族クラスと想定され、長岡京の南西端に位置することから、邸宅とすれば別荘(別業)ではないかと言及された。

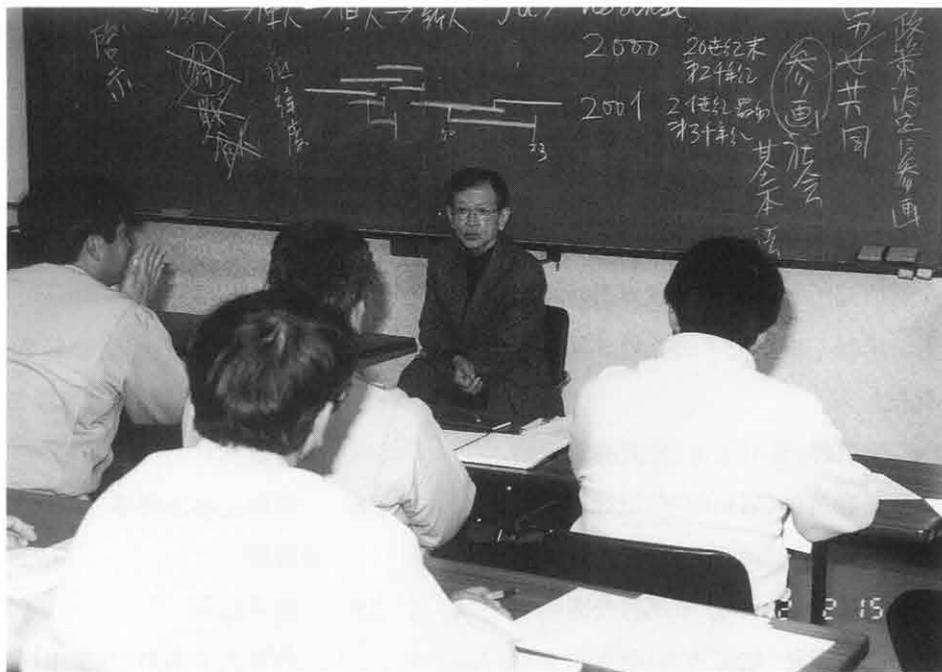
**京域外** 下植野南遺跡の調査地は標高8.5mの沖積地にある。土辺地区は、昨年度に引き続き古墳の周濠部の調査が行われ、その全容がほぼ明らかとなった。古墳の規模は一辺13mで周濠幅2～3mを測る方墳である。墳丘部は削平が著しく埋葬施設等は確認されなかったが、北西辺と南西辺の周濠からそれぞれ円筒埴輪、家形埴輪が出土した。円筒埴輪は細片であるが川西編年Ⅱ期に属している。家形埴輪は、二階建ての入母屋造りで、二階部分の柱間は2間×2間である。規模は、妻側30～40cm、棟側は50～60cmを測り、高さは80～90cmと推定される。屋根には破風板が取り付け、大棟にはハケ目で網代風に編み上げた様子が描かれている。また、軒先の内側には垂飾りの表現がある。屋根の規模は長さ50～80cmを測る。家形埴輪の時期は4世紀の後半と報告されている。

この古墳は新しく発見されたことから、京都府教育委員会および大山崎教育委員会と協議のうえ「土辺古墳」と命名された。

(竹井治雄)

## 一 訃報 一

去る7月10日に、当センター理事で前国立歴史民俗博物館館長の佐原真先生が70歳で逝去されました。佐原先生には、昭和56年のセンター発足以来、理事としてご指導をいただき、職員一同大変お世話になりました。お礼申し上げますとともに、謹んで心からご冥福をお祈り申し上げます。



平成14年2月15日当センター研修室にて撮影

## センターの動向(02.05~07)

1. できごと
5. 7 高梨遺跡(京北町)発掘調査開始  
下植野南遺跡(大山崎町)発掘調査開始
- 10 御毛通遺跡(八幡市)発掘調査終了(4.10~)
- 16 荒坂遺跡(八幡市)発掘調査終了(4.10~)
- 17 職員研修(於:当センター)奈良文化財研究所発掘技術者等専門研修報告、講師:松尾史子調査員「陶磁器調査」
- 20 二又遺跡(京田辺市)発掘調査開始
- 21 観音寺遺跡(福知山市)発掘調査開始  
野条遺跡(八木町)発掘調査開始  
三山木遺跡(京田辺市)発掘調査開始
- 22 長岡京連絡協議会(於:当センター)
- 31 退職職員辞令交付式
6. 3 新規採用職員辞令交付式
- 5 棕ノ木遺跡(精華町)発掘調査開始  
赤ヶ平遺跡第3次(木津町)発掘調査開始
- 7 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックOA委員会(於:京都府京都文化博物館)小山雅人総括調査員、辻本和美資料係長、森島康雄主任調査員出席  
高梨遺跡、発掘調査終了(5.7~)
- 12 畑ノ前遺跡第6次(精華町)関係者説明会
- 13 下植野南遺跡土辺地点(大山崎町)関係者説明会  
畑ノ前遺跡第6次、発掘調査終了(4.15~)
- 13~14 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(於:栃木県)中谷雅治常務理事・事務局長、杉江昌乃総務係長出席
- 14 職員研修(於:当センター)講師:小池寛主任調査員「城陽市長池墳丘墓の研究」
- 18 都出比呂志理事、下植野南遺跡現地視察
- 19 監事監査  
内里八丁遺跡(八幡市)発掘調査開始
- 25 第65回役員会・理事会(於:ルビノ京都堀川)樋口隆康理事長、川上貢副理事長、中谷雅治常務理事・事務局長、上田正昭、都出比呂志、高橋誠一、増田富士雄、杉原和雄各理事、安西信隆監事出席
- 26 長岡京連絡協議会(於:当センター)
- 27 女谷・荒坂横穴群(八幡市)現地説明会  
女谷横穴群、発掘調査終了(4.10~)  
荒坂横穴群、発掘調査終了(4.15~)

- 27～28 全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会(於：大津市)久保哲正調査第1課長、辻本和美資料係長出席
7. 2 大淵遺跡(亀岡市)発掘調査開始
- 4 イリ遺跡(丹後町)関係者説明会
- 8 芝山遺跡(城陽市)発掘調査開始
- 10 佐原真理事御逝去
- 12 池上遺跡第13次(八木町)発掘調査開始  
三山木遺跡、発掘調査終了(5.21～)
- 19 職員研修(於：当センター)奈良文化財研究所発掘技術者等専門研修報告、講師：芝暁彦調査員「報告書作成過程」
- 20 「佐原真さんとお別れ会」(於：東京都)中谷雅治常務理事出席
- 22 東原遺跡(八幡市)発掘調査開始
- 23 下植野南遺跡門田地点(大山崎町)関係者説明会
- 24 長岡京連絡協議会(於：当センター)
- 30 イリ遺跡、発掘調査終了(4.15～)  
下植野南遺跡、発掘調査終了(5.7～)

## 2. 普及啓発事業

6. 22 第93回埋蔵文化財セミナー(於：園部国際交流会館 コスモホール)『南丹波の中期古墳』：辻健二郎園部町教育委員会社会教育課主事「園部の前方後円墳と方墳」、中澤勝亀岡市教育委員会社会教育課主任「亀岡の前方後円墳と方墳」、戸原和人当センター主任調査員「保津車塚古墳の発掘調査」

## 3. 人事異動

5. 31 塩見司郎監事、竹延信三監事退任  
平良泰久調査第2課長、福島孝行調査員、松尾史子調査員退職(京都府教育庁へ復職)
6. 1 小石原範和監事、安西信隆監事就任  
長谷川達調査第2課長採用(京都府教育庁から派遣)

## 受贈図書一覧(02.05~07)

### 青森県埋蔵文化財調査センター

青森県埋蔵文化財調査報告書第322集 宮田館遺跡、同第324集 朝日山(2)遺跡Ⅳ、同第325集 朝日山(2)遺跡Ⅴ、同第327集 三内丸山(6)遺跡Ⅳ

### 水沢市埋蔵文化財調査センター

岩手県水沢市文化財報告書第36集 水沢遺跡群範囲確認調査、胆沢城跡平成13年度発掘調査概報、水沢市埋蔵文化財調査センター報告書第15集 町屋敷遺跡

### (財)山形県埋蔵文化財センター

年報平成13年度、山形県埋蔵文化財センター調査報告書第66集 米沢城跡発掘調査報告書、同第78集 一ノ坪遺跡・梅ノ木遺跡発掘調査報告書、同第79集 落衣長者屋敷遺跡発掘調査報告書、同第80集 高瀬山遺跡第2・3次発掘調査報告書、同第81集 太夫小屋1・2・3遺跡発掘調査報告書、同第82集 藤島D遺跡発掘調査報告書、同第83集 山田遺跡発掘調査報告書、同第84集 中台4・5遺跡発掘調査報告書、同第85集 白鳥館跡発掘調査報告書、同第86集 永源寺跡遺跡発掘調査報告書、同第87集 長表遺跡発掘調査報告書、同第88集 桜江遺跡発掘調査報告書、同第89集 米沢城跡第2次調査報告書、同第90集 四ツ塚遺跡第3次発掘調査報告書、山形県埋蔵文化財調査報告書第200集 分布調査報告書(26)、同第201集 分布調査報告書(27)、同第202集 分布調査報告書(28)

### 福島県文化財センター白河館

年報2001、研究紀要2001、弘法山のよこあな

### (財)茨城県教育財団

年報21、研究ノート11号

### (財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査事務所

(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第24集 武田西塙遺跡、同第25集 船窪Ⅴ、同第26集 向野Ⅳ

### ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

ひたちなか遺跡調査会埋蔵文化財調査報告第13集 東中根遺跡群発掘調査報告書

### (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

栃木県埋蔵文化財調査報告第248集 御霊前遺跡Ⅱ、同第250集 寺野東遺跡Ⅲ、同第244集 大塚古墳群内遺跡・塚原遺跡、同第253集 鶴田A遺跡Ⅰ、同第254集 八剣遺跡、同第259集

松山遺跡、同第260集 エグロ遺跡、同第261集 黒袴台遺跡、同第264集 井頭遺跡、年報第11号

### (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

ヒストリア榛名、ヒストリア榛名・レールの下の歴史、北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書抄録集、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第278集 長野原一本松遺跡、同第288集 元総社西川遺跡、同第289集 上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡、同第291集 波志江中屋敷東遺跡、同第292集 横手南川端遺跡・横手湯田遺跡、同第294集 鶴光路榎橋遺跡、同第295集 小八木志志貝戸遺跡4、同第297集 寺尾町下遺跡、同第299集 前橋城北曲輪遺跡、同第300集 上佐野樋越遺跡、同第302集 上福島尾柄町遺跡、平成12年度地域教材開発研究・研修報告

### 埼玉県立埋蔵文化財センター

年報11

### (財)千葉県文化財センター

研究連絡誌第62号、千葉県文化財センター調査報告第439集 成東町・山武町嶋戸東遺跡第5次発掘調査報告書

### (財)君津都市文化財センター

(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第172集 秋元城跡Ⅰ、同第173集 犬ヶ久保遺跡、同第174集 蔵波砦跡、同第175集 中尾遺跡群Ⅱ、同第176集 根形台遺跡群Ⅱ、同第177集 坂畑南遺跡、研究紀要Ⅸ、年報No.19、20年のあゆみ

### (財)印旛都市文化財センター

(財)印旛都市文化財センター発掘調査報告書第63集 下方内野南遺跡、同第140集 追作遺跡発掘調査報告書、同第170集 川栗遺跡群Ⅲ、同第171集 宮本宮後遺跡B地区、同第173集 駒形北遺跡、同第183集 尾上柳作遺跡、同第186集 馬場遺跡、同第189集 南三里塚五十石込遺跡、同第193集 向新田遺跡第2地点、同第195集 柳沢牧文違野松里野馬土手、同第196集 城山ノ作遺跡、年報17、第6回遺跡発表会発表要旨

### (財)市原市文化財センター

第16回遺跡発表会要旨、同第17回、上総国分寺台遺跡調査報告Ⅶ、年報平成11年度

### (財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財セ

ンター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第102集  
多摩ニュータウン遺跡、同第104集 多摩ニュー  
タウン遺跡、同第108集 多摩ニュータウン  
遺跡、同第111集 富士見池北遺跡、同第112集  
島屋敷遺跡第3次調査、同第116集 弁天町遺  
跡、同第117集 方南峰遺跡C地点、同第118集  
内藤町遺跡、島屋敷遺跡、年報21

(財)新宿区生涯学習財団新宿歴史博物館

市谷仲之町西遺跡Ⅲ

(財)かながわ考古学財団

(財)かながわ考古学財団調査報告45 池子遺跡  
群Ⅸ、同129 南原遺跡

(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター  
箕輪洞谷横穴墓群発掘調査報告

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査報告書第109集 箕輪遺  
跡Ⅰ、同第110集 八反田遺跡・高畑遺跡、同  
第111集 黒田古墳群、同第112集 道端遺跡Ⅰ、  
年報平成13年度

(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第  
14集 石名田木舟遺跡発掘調査報告、同第15集  
清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調  
査報告

(財)岐阜県文化財保護センター

岐阜県文化財保護センター調査報告書第68集  
南青柳遺跡・南青柳古墳・大平前遺跡、同第71  
集 野笹遺跡Ⅱ・赤池4号古墳、同第74集 大  
江遺跡・寿楽寺廃寺跡、年報1

各務原市埋蔵文化財調査センター

各務原市文化財調査報告書第34号 各務車洞遺  
跡発掘調査報告書、同第35号 各務東山遺跡発  
掘調査報告書

沼津市文化財センター

沼津市文化財調査報告書第58集 埋蔵文化財発  
掘調査報告書、同第65集 拓南東遺跡発掘調査  
報告書、同第67集 御幸町遺跡発掘調査報告書、  
同第68集 長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告  
書、同第69集 西洞遺跡(b区-1)発掘調査報告  
書、同第72集 東畑毛遺跡(第4次)発掘調査報  
告書、同第73集 尾崎遺跡発掘調査報告書、同  
第74集 下石田原田遺跡発掘調査報告書

愛知県埋蔵文化財センター

年報平成13年度、研究紀要第3号、愛知県埋蔵  
文化財情報17

三重県埋蔵文化財センター

研究紀要第11号、三重県埋蔵文化財調査報告  
115-16 六次A遺跡発掘調査報告、同115-18

里前遺跡発掘調査報告、同186-4 権現坂遺跡  
発掘調査報告、同208-3 発シA遺跡、同226-1  
勢武谷経塚、同227 中鳶遺跡(第2次)発掘調  
査報告、同227-1 金塚遺跡・金塚横穴墓群・  
山村遺跡発掘調査報告、同229 堀田第3～5  
次調査、同231 神田遺跡・屋瀬B遺跡発掘調  
査報告、同232 山室遺跡発掘調査報告、同234  
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第14次)発掘調  
査報告、同235 野篠里中発掘調査報告、同236  
惣作遺跡(第2次)発掘調査報告、宮山遺跡・広  
山B遺跡、近畿自動車道名古屋関線(亀山～亀  
山)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ、伊坂遺跡・東  
海道想定地

(財)滋賀県文化財保護協会

レトロ・レトロの展覧会2002

大津市埋蔵文化財調査センター

大津市埋蔵文化財調査報告書33 石山国分遺跡  
発掘調査報告書

能登川町埋蔵文化財センター

能登川町埋蔵文化財調査報告書第52集 神郷亀  
塚古墳(1次)・中山古墳群・和田山城跡、同第  
53集 西浦遺跡・石田遺跡

(財)大阪府文化財センター

池島・福万寺遺跡発掘調査概要X XⅥ、同X X  
Ⅷ、同X XⅨ、(財)大阪府文化財調査研究セン  
ター調査報告書第72集 向山遺跡発掘調査報告  
書、同第73集 志紀遺跡、同第76集 西浦東遺  
跡、同第78集 大坂城跡発掘調査報告Ⅰ

(財)大阪市文化財協会

長原・瓜破遺跡発掘調査報告XⅧ、長原遺跡発  
掘調査報告Ⅷ、同Ⅸ、長原遺跡東部地区発掘調  
査報告Ⅴ、瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ、南住吉遺  
跡発掘調査報告Ⅱ、大坂城跡Ⅴ、大阪市内にお  
ける朝鮮・日本石造物調査報告

(財)交野市文化財事業団

交野市埋蔵文化財調査報告2001-Ⅱ 森遺跡Ⅸ、  
同2001-Ⅲ 古墳時代の鉄製錬・鍛冶再現実験  
記録

(財)枚方市文化財研究調査会

枚方市文化財調査報告第39集 禁野本町遺跡、  
同第40集 藤阪東遺跡Ⅱ

(財)和歌山市文化体育振興事業団

埋文情報VOL.27

岡山市埋蔵文化財センター

年報1、新道遺跡、岡山城三之曲輪跡

(財)広島市文化財団

広島を拓く、研究連絡誌Ⅰ、(財)広島市文化財  
団発掘調査報告書第8集 成岡B地点遺跡

山口県埋蔵文化財センター

山口県埋蔵文化財センター調査報告第27集 萩城跡(外堀地区)Ⅰ、同第28集 向田遺跡Ⅱ、同第29集 西遺跡、同第30集 郡司鑄造所跡、同第31集 竜王南遺跡、同第32集 武久浜墳墓群、同第33集 吉永遺跡(Ⅳ地区)

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財発掘調査報告書第94集 大久保遺跡・大久保1号墳、同第95集 土居山遺跡、同第96集 祝谷西山遺跡、同第97集 道後町遺跡、愛比売一平成12(2000)年度年報、紀要愛媛第2号

(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

年報18、研究紀要第16号、北九州市埋蔵文化財調査報告書第268集 重留遺跡第3地点、同第269集 重留遺跡第5地点、同第270集 重留遺跡第6地点、同第271集 小倉城代米御蔵跡Ⅰ、同第272集 小倉城代米御蔵跡Ⅱ、同第273集 高槻遺跡群、同第274集 蒲生寺中遺跡1、同第275集 黒崎貝塚第5次、同第276集 長野尾登遺跡第2地点、同第277集 貫川遺跡12、同第278集 中村遺跡、同第279集 牛丸遺跡、同第280集 黒崎遺跡、同第281集 長野尾登遺跡第3地点A区、同第282集 室町遺跡第3次、同第283集 紺屋町遺跡、同第284集 大里八反田遺跡、同第285集 紅梅(A)遺跡3、同第286集 長野尾登遺跡第2地点E~H区

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第55集 枯木ヶ迫遺跡、同第57集 長藪原遺跡、同第61集 別府原遺跡・西ヶ迫遺跡・別府原第2遺跡

岩手県教育委員会

平泉文化研究年報第2号

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書第76集 米沢城南三の丸跡、同第77集 遺跡詳細分布調査報告書第15集、同第78集 上浅川C遺跡、同第79集 館山北館跡

群馬県教育委員会

群馬県文化財情報システム(CD-ROM版)

群馬町教育委員会

群馬町埋蔵文化財調査報告第55集 国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ、同第57集 保渡田徳昌寺前遺跡・三ツ寺大下Ⅳ遺跡、同第59集 国府南部遺跡群Ⅲ、同第60集 町内遺跡Ⅸ、同第61集 上野国分尼寺跡北辺遺跡、同第62集 国府南部遺跡群Ⅳ

境町教育委員会

下瀧名・高田遺跡

吉井町教育委員会

平成12年度町内遺跡発掘調査報告書、同平成13年度、黒熊境塚遺跡発掘調査報告書、矢田遺跡発掘調査報告書

鴻巣市教育委員会

鴻巣市文化財調査報告第10集 鴻巣市遺跡群Ⅸ、同第11集 鴻巣市遺跡群Ⅹ

袖ヶ浦市教育委員会

平成13年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書 上谷田遺跡・仲ノ台遺跡・横田郷

木更津市教育委員会

木更津市文化財調査集報6、大畑台遺跡群発掘調査報告書、平成13年度木更津市内遺跡発掘調査報告書、千束台遺跡群発掘調査報告書

山武町教育委員会

山武町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 駒形台遺跡

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査報告第29集 七社神社裏貝塚・西ヶ原貝塚Ⅲ・中里貝塚Ⅱ

府中市教育委員会

府中市埋蔵文化財調査報告第30集 武蔵国分寺跡調査報告6・南方地域の調査3、都営府中宮町三丁目団地発掘調査概報

茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告第13集 円蔵御屋敷A遺跡、同第14集 小和田已待田B遺跡、同第15集 鶴嶺八幡社池、同第16集 旧相模川橋脚、茅ヶ崎市文化振興財団調査報告書3 香川間門B遺跡

境川村教育委員会

境川村埋蔵文化財調査報告書第17輯 西原遺跡・柳原遺跡

魚津市教育委員会

松倉城壘群発掘調査報告Ⅰ

舟橋村教育委員会

竹内東芦原遺跡発掘調査報告

小松市教育委員会

二ツ梨一貫山窯跡

清水市教育委員会

清水市内遺跡群発掘調査報告書平成12年度、同平成13年度、午王堂山3号墳確認調査報告書平成12年度、西の原号墳・6号墳発掘調査報告書、上平遺跡、神明山4号墳発掘調査報告書

菊川町教育委員会

菊川町埋蔵文化財報告書第65集 宮の西遺跡、菊川町文化財年報第7号

豊橋市教育委員会

- 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第59集 東脇遺跡群、同第60集 中野遺跡・東郷内1号窯・西上遺跡・伊奈遺跡・野添遺跡、同第61集 二川古窯址群Ⅱ、同第62集 橋良遺跡Ⅲ、同第63集 吉田城址Ⅴ、同第64集 西野石灰焼窯址、同第65集 稲荷山古墳群、同第66集 本郷遺跡Ⅱ、同第67集 市内試掘調査報告書、同第68集 馬越地区遺跡範囲確認調査
- 吉良町教育委員会**  
史跡正法寺古墳1次調査概要
- 草津市教育委員会**  
草津市文化財調査報告書45 矢倉古墳群第1次発掘調査概要報告書、同48 平成12年(2000年)度草津市文化財年報
- 八日市市教育委員会**  
八日市市文化財調査報告21 徳昌寺遺跡発掘調査報告書
- 中主町教育委員会**  
埋蔵文化財調査の手引き
- 新旭町教育委員会**  
織田信長と謎の清水山城
- 今津町教育委員会**  
今津町文化財調査報告書第26集 町内遺跡発掘調査概要報告書
- 大阪市教育委員会**  
大阪の歴史と文化財第9号、平成12年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
- 高石市教育委員会**  
高石市文化財発掘調査概2001-1 大園遺跡他の発掘調査概要
- 東大阪市教育委員会**  
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告平成13年度、鬼虎川遺跡第52次発掘調査報告、段上遺跡第12次発掘調査概要報告、段上遺跡第3・4次発掘調査報告書、瓜生堂遺跡第46・147-1・2次発掘調査報告書
- 柏原市教育委員会**  
玉手山古墳群の研究Ⅱ、柏原市文化財概報2001-I 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報2001年度、同2001-Ⅲ 柏原市遺跡群発掘調査概報2001年度、武田塾資料目録(2)
- 河内長野市教育委員会**  
河内長野市文化財調査報告書第33輯 河内長野市埋蔵文化財発掘調査報告書XⅦ、同第34輯 河内長野市城館分布調査報告書、同第35輯 河内長野市埋蔵文化財調査報告書XⅧ
- 藤井寺市教育委員会**  
津堂城山古墳、藤井寺市文化財報告第22集 石川流域遺跡群発掘調査報告XⅦ
- 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所**  
平成12年度年報、兵庫県埋蔵文化財研究紀要第2号、兵庫県文化財調査報告第112冊 西河原遺跡、同第139冊 緑ヶ丘窯址群Ⅱ、同第140冊 大陣原古窯跡群、同第176冊 佃遺跡、同第215冊 日下部遺跡発掘調査報告書、同第221冊 荒田神社裏遺跡、同第223冊 宝林寺北遺跡Ⅱ、同第224冊 西山B・C古墳群、同第226冊 住吉宮町遺跡第33次調査、同第228冊 北口町遺跡、同第230冊 まるやま遺跡Ⅱ、同第231冊 塩壺遺跡、同第235冊 年ノ神遺跡
- 加西市教育委員会**  
加西市埋蔵文化財調査報告35 三子遺跡(第3次)、同43 横尾遺跡(第2次～第4次)、同45 笹倉・堂ノ下遺跡(第1次)、同46 岡開地遺跡(第3次)・三子遺跡(第4次)
- 龍野市教育委員会**  
龍野市文化財調査報告24 奥村遺跡
- 小野市教育委員会**  
小野市文化財調査報告25 下来住高田遺跡・下来住東高在遺跡
- 赤穂市教育委員会**  
赤穂市文化財調査報告書54 有年原・田中遺跡3、同55 赤穂城跡二の丸庭園錦帯池発掘調査概要
- 高砂市教育委員会教育センター**  
竜山採石遺跡
- 中町教育委員会**  
中町文化財報告27 思い出遺跡群Ⅳ
- 王寺町教育委員会**  
王寺町文化財調査報告書第2集 達磨寺3号墳範囲確認調査報告書
- 明日香村教育委員会**  
明日香村遺跡調査概報平成12年度
- 御坊市教育委員会**  
平成11年度日高郡衙跡市内遺跡確認調査概報、同平成12年度、同平成13年度
- 倉吉市教育委員会**  
倉吉市文化財調査報告書第113集 高原遺跡発掘調査報告書、同第115集 長谷遺跡発掘調査報告書、同第116集 平畑ヶ遺跡発掘調査報告書、同第117集 高鼻遺跡発掘調査報告書、天平の華「伯耆国分寺」を大いに語る
- 出雲市教育委員会**  
井原遺跡発掘調査報告書、出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 下古志遺跡、古志本郷遺跡・下古志遺跡、白枝荒神遺跡・井原遺跡、海上遺跡、天神遺跡第10次発掘調査、天神遺跡第12次発掘調査、中野西遺跡、小山遺跡第3地点

発掘調査報告書(第3次発掘調査)、小山遺跡第3地点発掘調査報告書(第4次発掘調査)

**松江市教育委員会**  
松江市文化財調査報告書第88集 史跡松江城整備事業報告書、同第89集 二ツ縄手遺跡発掘調査報告書

**伯太町教育委員会**  
伯太町埋蔵文化財調査報告書第4集 シアケ遺跡発掘調査報告書

**御津町教育委員会**  
御津町埋蔵文化財発掘調査報告10 備前原遺跡

**山口市教育委員会**  
山口市埋蔵文化財年報1、山口市埋蔵文化財調査報告第78集 山口市内遺跡詳細分布調査、同第80集 上東遺跡

**下関市教育委員会**  
下関市文化財調査報告書57 迫山南麓遺跡、同58 勝谷丸山古墳群、同59 長門国府寺跡、同61 吉母堂の下遺跡、同63 勝谷丸山古墳群、同65 延行条里遺跡

**坂出市教育委員会**  
坂出市内遺跡発掘調査報告書 平成11年度国庫補助事業、同平成12年度国庫補助事業、同平成13年度国庫補助事業

**砥部町教育委員会**  
砥部町麻生小学校南遺跡・砥部町拾町山遺跡発掘調査報告書

**松野町教育委員会**  
松野町文化財調査報告書第10集 河後森城跡環境整備事業概要報告書I

**土佐山田町教育委員会**  
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第29集 新改西谷遺跡・勝楽寺跡、同第30集 新改小山田遺跡、同第31集 新改南ヶ内遺跡、同第32集 開キ丸遺跡、同第33集 屋舗田丸遺跡

**鏡村教育委員会**  
鏡村埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 小浜城跡

**福岡県教育委員会**  
九州歴史資料館研究論集27、大宰府政庁跡、一般国道210号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告第16集 船越高原A遺跡Ⅲ、同第17集 堂畑遺跡Ⅰ、同第18集 松門寺A遺跡、福岡県文化財調査報告第166集 徳政宮ノ上遺跡、同第167集 彼坪遺跡Ⅰ、同第168集 西新町遺跡Ⅳ、同第169集 宝満山遺跡群・浦ノ田遺跡Ⅲ、同第170集 内ヶ磯窯跡遺跡2、同第171集 流川地区遺跡群、福岡県埋蔵文化財発掘調査年報平成12年度、姉妹遺跡パンフレット、三遺跡交流

こどもフォーラム記録集

**久留米市教育委員会**  
久留米市文化財調査報告書第177集 櫛原侍屋敷遺跡、同第178集 外野遺跡・荒木今宮脇遺跡、同第179集 金丸遺跡、同第180集 久留米市埋蔵文化財調査集報Ⅳ、同第181集 大園遺跡、同第182集 筑後国府跡、同第183集 平成13年度久留米市内遺跡群

**行橋市教育委員会**  
行橋市文化財調査報告書第28集 崎野遺跡、同第29集 柳井田早崎遺跡・柳井田藤ヶ塚畑遺跡

**筑後市教育委員会**  
筑後市文化財調査報告書第38集 筑後東部地区遺跡群Ⅷ、同第39集 上北島篠島遺跡、同40集 尾島町田遺跡、同第41集 久富綿打遺跡、同第42集 津島九反坪遺跡、第43集 筑後西部第2地区遺跡群Ⅴ、同第44集 筑後市内遺跡群Ⅲ、同第45集 筑後市内遺跡群Ⅳ

**前原市教育委員会**  
前原市文化財調査報告書第78集 三雲・井原遺跡Ⅱ、同第80集 神在藤瀬家住宅、王のアクセサリー、伊都国王都・三雲遺跡

**夜須町教育委員会**  
夜須町文化財調査報告書第38集 惣利遺跡、同第40集 迫額遺跡Ⅰ、同第45集 三並宮ノ前遺跡・本宮遺跡・鎌瀬遺跡、同第46集 梨子木遺跡、同第50集 赤坂古墳群Ⅰ、同第51集 藤坂古墳群Ⅰ、同第52集 曾根田前田遺跡Ⅰ、同第53集 ハヶ坪遺跡、同第54集 城山遺跡群Ⅳ、同第55集 中原遺跡、同第56集 大木遺跡Ⅲ、同第57集 曾根田前田遺跡Ⅲ

**那珂川町教育委員会**  
那珂川町文化財調査報告書第57集 楠木遺跡群、同第58集 宗石遺跡群、同第59集 山田西遺跡群Ⅲ

**吉井町教育委員会**  
吉井町文化財調査報告書第13集 千年遺跡群、同第14集 屋部西文蔵遺跡、同第15集 吉井中学校遺跡遺構編、同第16集 広園地区遺跡

**新吉富村教育委員会**  
新吉富村文化財調査報告書第15集 宇野地区遺跡群Ⅳ

**佐賀県教育庁文化課**  
佐賀県文化財調査報告書第116集 切畑遺跡、同第128集 西山田二本松遺跡、佐賀県文化財年報5、同6

**唐津市教育委員会**  
唐津市文化財調査報告書第103集 川頭遺跡、同第104集 佐志中通遺跡(2)、同第105集 天

- 神ノ元遺跡、同第106集 唐津市内遺跡確認調査(18)
- 鎮西町教育委員会**  
鎮西町文化財調査報告書第20集 北条氏盛陣跡
- 久保田町教育委員会**  
久保田町文化財調査報告書第5集 快万遺跡1区・2区
- 鷹島町教育委員会**  
鷹島町文化財調査報告書第3集 鷹島海底遺跡IV
- 相良村教育委員会**  
相良村文化財調査報告第2集 永谷遺跡
- 中津市教育委員会**  
中津市文化財報告第27集 2001年度中津地区遺跡群発掘調査概報XIV
- 宮崎県教育委員会**  
平成13年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書、宮崎県文化財調査報告書第46集 宮崎県文化財年報Ⅲ、特別史跡西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書Ⅶ、西都原100号墳
- 宮崎市教育委員会**  
宮崎市文化財調査報告書第49集 垣下遺跡Ⅱ、同第50集 江田原第3遺跡、同第51集 北中遺跡Ⅱ、同第52集 史跡生目古墳群、同第53集 宮崎小学校遺跡
- 高岡町教育委員会**  
高岡町埋蔵文化財調査報告書第23集 高野原遺跡、同第24集 高岡町内遺跡Ⅶ
- 沙流川歴史館**  
平取町文化財調査報告書14 シリ3遺跡
- 岩手県立博物館**  
平成13年度年報、研究報告第19号
- 東北歴史博物館**  
平成13年度年報、研究紀要3
- 北上市立博物館**  
北上市立博物館調査報告書第5集 旧仙台藩寺坂番所(旧新田家主屋)復原修理報告書・旧修験豊珠院(旧千葉家)道場復原修理報告書
- 秋田県立博物館**  
年報平成14年、研究報告第27号
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場**  
史跡土浦城跡、常名台遺跡群確認調査・神明遺跡
- 栃木県立博物館**  
とちぎの宝ものがたり、研究紀要-人文-第19号
- 埼玉県立さきたま資料館**  
調査研究報告第15号
- 国立歴史民俗博物館**  
研究報告第94～96集、落合計策縄文時代遺物コレクション、平成14年度要覧
- 千葉県立中央博物館**  
研究報告-人文科学-第7巻第2号
- 千葉市立加曽利貝塚博物館**  
紀要第29号、研究資料第6集 加曽利貝塚人骨の総合調査
- 船橋市郷土資料館**  
中世の船橋
- 出光美術館**  
館報第118号
- 調布市郷土博物館**  
調布市埋蔵文化財調査報告37 下石原遺跡、同38 飛田給遺跡・飛田給北遺跡、同40 下布田遺跡、同41 調布市の遺跡調査、同43 北浦遺跡、同44 上石原遺跡、同45 桜塚古墳
- 青梅市郷土博物館**  
平成12年度青梅市埋蔵文化財調査概要、城の腰遺跡第7次発掘調査概要報告、上生原遺跡第4次発掘調査概報、中宿遺跡発掘調査概報、藤橋・城の腰遺跡(第3次)発掘調査概報
- 茅ヶ崎市文化資料館**  
文化資料館調査研究報告10
- 壱岐郷土館**  
郷ノ浦町文化財調査報告書第3集 郷ノ浦町の文化財、同第4集 車出遺跡・戸田遺跡・大谷遺跡
- 上田市立博物館**  
史・資料で見る上田の歴史
- 新潟県立歴史博物館**  
研究紀要第3号
- 長岡市立科学博物館**  
研究報告第37号
- 氷見市立博物館**  
氷見市近世史料集成第23冊 陸田家文書その8、同第24冊 宮永家文書その8
- 高岡市立博物館**  
殖産興業と博覧会
- 石川県立歴史博物館**  
戦い・くらし・女たち、景勝をめぐる
- 真脇遺跡縄文館**  
真脇遺跡2002
- 三方町縄文博物館**  
「高槻市の埋蔵文化財展」記念シンポジウム、土器の径・五
- 岐阜県博物館**  
館報第25号、調査研究報告第23号
- 名古屋市博物館**

- 研究紀要第25巻  
名古屋市見晴台考古資料館  
年報19、研究紀要第4号、なごやの遺跡～笠寺台地～、見晴台教室'01、名古屋市文化財調査報告53 埋蔵文化財調査報告書40、同54 埋蔵文化財調査報告書41、同55 埋蔵文化財調査報告書42、同56 埋蔵文化財調査報告書43、富士見町遺跡第5次・白川公園遺跡第4次、天白元屋敷遺跡第4次発掘調査概要報告書、貞養院遺跡、高蔵遺跡、千音寺遺跡(北宮田団地)発掘報告書、千音寺遺跡
- 豊田市郷土資料館  
豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 花本遺跡・万加田遺跡
- 滋賀県立安土城考古博物館  
共に一女子を立て、平成13年度年報、紀要第10号
- 滋賀県立琵琶湖博物館  
図書資料1、琵琶湖博物館研究調査報告第18号 安心院動物化石群、中世のむら探検、同ガイドブック
- 新旭町郷土資料室  
近江国木津荘現況調査報告書I
- 大阪府立近つ飛鳥博物館  
未盗掘古墳の世界
- 大阪府立弥生文化博物館  
平成13年度要覧
- 吹田市立博物館  
川の古代祭祀、館報2
- 堺市博物館  
館報第21号
- 柏原市立歴史資料館  
館報13、柏原市古文書調査報告書第3集 小出家文書目録、線刻壁画は語る
- 太子町立竹内街道歴史資料館  
館報第8号
- 播磨町郷土資料館  
館報平成13年度
- 西脇市郷土資料館  
西脇市文化財調査報告書11 上ノ段遺跡・野村廃寺
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所飛鳥資料館  
あすか以前
- 島根県立博物館  
年報平成12年度
- 岡山県立博物館  
研究報告第19～22号
- 山口県立山口博物館  
研究報告第28号
- 下関市立考古博物館  
研究紀要第6号、年報7
- 北九州市立考古博物館  
研究紀要Vol. 8、年報平成12年度、同平成13年度
- 春日市奴国の丘歴史資料館  
春日市埋蔵文化財年報9、春日市文化財調査報告書第32集 須玖タカウタ遺跡、同第33集 原ノ口遺跡、同第34集 立石遺跡
- 行橋市歴史資料館  
豊の国のエンブレム
- 鹿児島市立ふるさと考古歴史館  
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(35) 原田久保遺跡、同(36) 春日町遺跡B地点、同(37) 武遺跡E地点、同(38) 名山遺跡
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター  
東北大学埋蔵文化財調査年報17
- 山形大学歴史・地理・人類学研究会  
山形大学歴史・地理・人類学論集第3号
- 茨城大学人文学部考古学研究室  
常陸の円筒埴輪
- 千葉大学文学部考古学研究室  
原始・古代安房国の特質と海上交通
- 東京大学埋蔵文化財調査室  
東京大学構内遺跡調査研究年報3
- お茶の水女子大学博物館学研究室  
大塚町遺跡2
- 明治大学文学部  
古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究
- 日本大学史学会  
史叢第65号、同第66号
- 青山学院大学文学部史学科研究室  
青山史学第20号
- 國學院大學考古学資料館  
要覧2001、紀要第18輯
- 白山史学会  
白山史学第38号、東洋大学文学部紀要第55集
- 立正大学文学部考古学研究室  
考古学論究第8号
- 東京都立大学人文学部考古学研究室  
人類誌集報2001
- 金沢学院大学美術文化学部文化財学科  
文化財論考創刊号、同2号
- 名古屋大学文学部考古学研究室  
名古屋大学文学部研究論集143 史学48[考古学抜刷]、加速器質量分析放射性炭素年代測定法

- による縄文時代集落の存続期間に関する研究  
**滋賀県立大学人間文化学部**  
 人間文化12号
- 大谷女子大学博物館**  
 大谷女子大学博物館調査報告書第46冊 熊野本宮備崎
- 大手前大学**  
 大手前大学社会文化学部論集第2号、大手前大学人文科学部論集第2号
- 岡山理科大学図書館**  
 自然科学研究所研究報告第27号
- 山口大学埋蔵文化財資料館**  
 山口大学構内遺跡調査研究年報XIV、学内発掘20年の歩み、出土品にみる山口県の歴史
- 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室**  
 東北アジアにおける先史文化の比較考古学的研究、韓国考古学の新世紀、西谷正先生年譜・著作目録
- 熊本大学埋蔵文化財調査室**  
 年報8
- (財)アイヌ文化振興・研究推進機構  
 海を渡ったアイヌの工芸
- 高崎市総務部市史編さん室**  
 新編高崎市史 資料編1 原始古代I
- 東五十子遺跡調査会**  
 本庄市埋蔵文化財発掘調査報告第24集 市内遺跡発掘調査報告書、同第25集 久下前遺跡第3地点発掘調査報告書、本庄市遺跡調査会報告第6集 大久保山遺跡浅見山I地区・北堀前古墳群発掘調査報告書、東五十子・川原町
- 日本考古学協会**  
 年報53、日本考古学第12号、同第13号
- 文化庁文化財部美術工芸課**  
 月刊文化財5月号
- 共和開発株式会社**  
 小原遺跡
- (株)吉川弘文館  
 日本の時代史1 倭国誕生
- (株)ジャパン通信情報センター  
 文化財発掘出土情報第242号
- 国立国会図書館**  
 日本全国書誌通号2384、2385号
- 文京区遺跡調査会**  
 文京区埋蔵文化財調査報告書第17集 春日町遺跡第VI地点、同第19集 指ヶ谷町遺跡、同第25集 駒込西片町遺跡
- 日野新町一丁目住宅遺跡調査会**  
 日野市埋蔵文化財発掘調査報告72 日野駅北駐輪場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、姥久保遺跡、姥久保遺跡III
- 国分寺市遺跡調査会**  
 武蔵国分寺跡発掘調査概報XXIII、同25、同26、多摩蘭坂遺跡III、恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報II
- 府中市埋蔵文化財整理事務所**  
 武蔵国府の調査20、同21、同22
- 木曾広域連合**  
 川合遺跡、下在I遺跡
- 発掘された日本列島展実行委員会事務局**  
 発掘された日本列島2002
- 浜松市埋蔵文化財調査事務所**  
 恒武西宮遺跡、天王町村東遺跡、東前遺跡
- 伊場遺跡資料館内埋蔵文化財整理事務所**  
 川山遺跡III、伊場遺跡発掘調査報告書第10冊 伊場遺跡遺物編8
- (株)学芸出版社  
 京町屋のしくみと改修のてびき
- (財)古代学協会  
 勝部西浦遺跡発掘調査報告書、林寺跡試掘調査報告書、古代文化 第54巻第4～6号
- 近畿地方整備局淀川工事事務所**  
 水辺の遺産
- 大阪・郵政考古学会**  
 郵政考古紀要第31号
- 河内長野市遺跡調査会**  
 河内長野市遺跡調査報告XXV 大日寺遺跡、同XXVII 滝尻遺跡、同XXIX 天野山金剛寺遺跡
- 古代文化調査会**  
 平安京左京三条四坊五町、平安京左京四条三坊九町
- 妙見山麓遺跡調査会**  
 八千代町文化財調査報告書第3冊 野間川流域の遺跡調査報告書I
- 尼崎市立文化財収蔵庫**  
 大物遺跡第1次調査概要その1、同その2、尼崎市文化財調査報告第30集 尼崎市内復旧・復興事業に伴う発掘調査
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所**  
 奈良文化財研究所学報第63冊 山田寺跡発掘調査報告、鎊帯をめぐる諸問題
- 奈良県立橿原考古学研究所**  
 考古学論攷第24冊、奈良県立橿原考古学研究所調査報告第79冊 居伝遺跡
- 興福寺**  
 興福寺 第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報III
- 埋蔵文化財天理教調査団**

布留遺跡出土の中国陶磁器  
(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護  
協力事務所

みんなで考えよう、世界遺産の保護

津山弥生の里文化財センター

津山市埋蔵文化財発掘調査報告第71集 沼E遺  
跡I、同第72集 美作国分寺跡・塔跡発掘調査  
報告書、津山弥生の里第9号

後牟田遺跡調査団

後牟田遺跡

国立文化財研究所

全国文化遺蹟発掘調査年報

吉林省文物考古研究所

北方文物2000年第1～4期、同2001年第1～3  
期、考古2000年第1～12期、同2001年第1～12  
期

国立文化財研究所遺蹟調査研究室

ロシアアムール河スチュ島新石器時代住居遺跡  
発掘調査報告書

京都市埋蔵文化財調査センター

京都市内遺跡発掘調査概報平成13年度、京都市  
内遺跡試掘調査概報平成13年度、京都市内遺跡  
立会調査概報平成13年度

(財)向日市埋蔵文化財センター

向日市埋蔵文化財調査報告書第48集 宝菩提院  
廃寺瓦窯跡、同第53集 長岡京跡二条大路ほか、  
都城13

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第25集

京都府教育委員会

埋蔵文化財発掘調査概報(2002)、京都府遺跡地  
図[第3版]第2分冊

舞鶴市教育委員会

舞鶴市文化財調査報告第37集 女布遺跡第3次  
発掘調査概要報告書、同第38集 三浜丸山古墳  
群発掘調査概要報告書、同第39集 泉源寺遺跡  
第3次発掘調査概要報告書

大江町教育委員会

大江町文化財調査報告書第10集 高川原遺跡

亀岡市教育委員会

亀岡市文化財調査報告書第59集 史跡丹波国分  
寺跡第14次発掘調査報告書、同第60集 市内遺  
跡発掘調査報告書

亀岡市生涯学習課市史編さん係

新修亀岡市史 資料編第二巻

大山崎町教育委員会

大山崎町文化財年報平成12年度、大山崎町埋蔵  
文化財調査報告書第23集 平成12年度国庫補助

事業調査概報

京田辺市教育委員会

京田辺市埋蔵文化財調査報告書第33集 向谷遺  
跡・魚田遺跡第4次発掘調査概報

山城町教育委員会

京都府山城町埋蔵文化財調査報告書第23集 高  
井手瓦窯跡、同第29集 山城町内遺跡発掘調査  
概報X I、史跡椿井大塚山古墳保存管理計画策  
定報告書

京都府立総合資料館

資料館紀要第30号

丹後町古代の里資料館

京都府丹後町文化財調査報告第15集 平成13年  
度町内遺跡地形測量調査概報

園部文化博物館

園部・古墳周遊

亀岡市文化資料館

安藤一族とその業績、遺跡で学ぼう。遺跡で楽  
しもう。

宇治市歴史資料館

宇治の名宝、2001発掘宇治

城陽市歴史民俗資料館

自然と人間、館報第7号

八幡市立ふるさと学習館

八幡市埋蔵文化財発掘調査概報 第32集

鹿島神社建築委員会

京都府指定有形文化財(建造物)鹿島神社本殿保  
存修理工事報告書

精華町の自然と歴史を学ぶ会

波布理曾能第19号

穴沢啄光

史峰第29号

梶 國男

多摩考古第32号

西 健一郎

長洲町文化財調査報告書第1集 ヒイデン洲遺  
跡

森川昌和

鳥浜貝塚

山岸良二

東邦考古第26号

山田勝晴

日韓古代山城シンポジウム参考資料集

渡辺 誠

時宗僧侶の阿弥衣の研究

## 編集後記

猛暑も去り、過ごしやすい季節となりました。

情報85号が完成しましたので、お届けします。今回は、夏枯れのためか少しスリムになりました。

さて、本号で紹介しました佐山尼垣外遺跡は、桂川・宇治川・木津川の三川が合流する、京都盆地でも最も標高の低い地域にあります。遺跡の北方には、かつて巨椋池の広大な水辺が広がっていました。低湿地のため、これまで、古代に遡る遺跡は存在しないとされてきましたが、佐山尼垣外遺跡の調査によって縄文時代晩期には、すでに人々の生活の場であったことが判明しました。

過去から現在、私たちを取り巻く環境は大きく変化して来ました。各時代に生きた人々の眼に、まわりの自然や季節のうつろいは、どのように映ったのでしょうか。

(編集担当=辻本和美)

## 京都府埋蔵文化財情報 第85号

平成14年9月26日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189

印刷 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル  
Tel (075)441-3155(代) Fax (075)417-2050(代)

『京都府埋蔵文化財情報』第85号正誤表

頁	場所	誤	正
21	下から7行目	は長さ・・・	羨道は長さ・・・



KYOTO  
ARCHAEOLOGY CENTER